

和歌山県で行うワーケーションの効果
(令和3年度和歌山県データを活用した公募型研究事業)

研究成果報告書

令和4年2月

富士通 Japan 株式会社

シニアフィールド・イノベータ

榎野 弥千雄

目次

1. 本研究の概要.....	4
1.1. 研究の背景と目的.....	4
1.2. 研究の対象.....	5
2. ワークーションの取り組み状況.....	7
2.1. 企業でのワークーションの取り組み.....	7
2.2. 自治体でのワークーションの取り組み.....	8
2.2.1. 岡山県におけるワークーション・コレクティブインパクト.....	9
2.2.2. 長野県におけるワークーション・コレクティブインパクト.....	10
2.2.3. 鳥取県におけるワークーション・コレクティブインパクト.....	10
2.2.4. 和歌山県におけるワークーションの取り組み.....	11
3. エコツーリズムワークーションの効果検証計画.....	14
3.1. 検証する仮設.....	14
3.2. 検証する方法.....	15
4. エコツーリズムワークーションの効果検証結果.....	17
4.1. 参加者の基礎情報.....	17
4.2. 和歌山県へのアクセスの評価.....	18
4.3. 通信環境の評価.....	20
4.4. ワーキングスペースの評価.....	21
4.5. 体験プログラムの評価.....	23
4.5.1. 熊野古道ウォークの評価.....	24
4.5.2. 熊野本宮大社参拝の評価.....	25
4.5.3. 道普請の評価.....	27
4.5.4. 意見交換会&ワークショップの評価.....	28
4.5.5. 川湯温泉の評価.....	29
4.5.6. 里山の再生活動の評価.....	31
4.5.7. 熊野古道館の評価.....	32
4.5.8. 世界遺産交流センターの評価.....	34
4.6. 参加者の内面変化の評価.....	35
4.6.1. 地域における魅力の発見や満喫の評価.....	36
4.6.2. 非日常空間でのリフレッシュの評価.....	37
4.6.3. リラックスできるワーク環境の評価.....	38
4.6.4. 地域関係者との交流、コミュニケーションの評価.....	39

4.6.5.	非日常空間での刺激の評価	40
4.6.6.	スキルアップの評価	41
4.6.7.	健康増進の評価	42
4.6.8.	集中できるワーク環境の評価	43
4.7.	業務遂行の評価（普段の業務との比較）	44
4.7.1.	仕事に対するモチベーションの評価	45
4.7.2.	創造力の喚起の評価	46
4.7.3.	仕事の効率の評価	47
4.7.4.	仕事の質の評価	48
4.7.5.	トラブル発生時対応の評価	49
4.7.6.	同僚や取引先とのコミュニケーションの評価	50
4.8.	エコツアーリズムワーケーション全体の評価	50
4.8.1.	エコツアーリズムワーケーションに参加して感じたこと	50
4.8.2.	ワーケーションの再実施	52
4.8.3.	和歌山県への再訪	53
5.	エコツアーリズムワーケーションの効果検証まとめ	55
5.1.	ワーケーション受け入れ側の視点	55
5.2.	ワーケーション実施側の視点	56
5.3.	エコツアーリズムワーケーションについての考察	57

1. 本研究の概要

本研究の背景と目的、研究の対象について述べる。

1.1. 研究の背景と目的

新型コロナウイルスの影響により、企業ではテレワークの導入が進んでいる。そのようななか、テレワークに適さない住宅・通信環境もあることから「仕事に集中できる環境」が求められ、また「在宅うつ」や「コロナうつ」といった新たなメンタルの問題も生まれている。こういった問題に対して「自宅から離れた観光地やリゾート地などの開放的な環境で、リモートワークにより仕事を実施しながら休暇を取る過ごし方」が有効な一手になるのではないかと期待が高まっている。これを「ワーク」（労働）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた“ワーケーション”と呼ぶ。

自治体ではワーケーションの実施場所になることによって関係人口、移住人口の増加に期待を寄せており、全国の自治体でワーケーションを受け入れる取り組みが活発に行われている。

和歌山県では平成 29 年度より、全国の自治体に先駆けて「ワーケーション」の取組を開始しており、平成 29 年度から令和 2 年度の 4 年間で 118 社 1069 名のワーケーションの受け入れ実績を挙げている。今後更にワーケーションの受け入れを拡大することが和歌山県の課題となっている。

こういった中で、令和 2 年 10 月 15 日、和歌山県と富士通株式会社（以下、富士通）は、地方創生や地域課題の解決、地域の産業活性化などを目的に、相互の連携・協力を通じた持続可能な地域社会の構築を目指して、ワーケーション・移住の包括協定を締結した。

和歌山県と富士通の協定の連携・協力の対象分野は、

- (1) ワケーション推進による関係人口の創出
- (2) 多様な知見・スキルを活用した地域課題の解決
- (3) 遠隔勤務を活用した転職なき移住による地方創生

の 3 点である。

(1) のワーケーション推進による関係人口の創出の取り組みのひとつに、「サステナブルエコツーリズム」のトライアル実施を挙げている。これは、

“和歌山県が旅行ガイドブック・ロンリープラネットで「サステナビリティ部門」に世界で唯一選出されたことを受け、「サステナブルエコツーリズム」の推進によって地域活性化を目指しており、富士通の従業員の現地での体験や交流を通じた新たな知見の獲得を目的に、「サステナブルエコツーリズム」をテーマにしたワーケーションプログラムをトライアル実施し、共同で効果測定やプログラムの改善を行っていく” というものである。

これを受け、本研究では「サステナブルエコツーリズムをテーマにしたワーケーションプログラム」において、ワーケーション受け入れ側である和歌山県の視点と、ワーケーション実施側の富士通社員の視点で、効果を検証し、「サステナブルエコツーリズムをテーマにしたワーケーションプログラム（以降、エコツーリズムワーケーションと記載）」の改善点を明らかにするものである。

1.2. 研究の対象

本研究で効果検証する対象となるエコツーリズムワーケーションについて説明する。

一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローが計画した「サステナブルエコツーリズムツアー」に、富士通側からの「全日程のうち約半分の時間を仕事に充てる」という要請を加味した日程となっている。

表 1-1 エコツーリズムワーケーションの日程

1日目：11月24日（水）	2日目：11月25日（木）	3日目：11月26日（金）
8:55 南紀白浜空港着（東京から）	8:30 自由時間（テレワーク）	8:30 川湯温泉（宿泊先）出発
10:00 紀伊田辺駅着（大阪から）		9:30 里山の再生活動
10:45 熊野古道館・滝尻エリア説明		11:00 移動
11:30 熊野古道ウォーク ガイド	12:00	12:00 HOTEL SEAMORE 着
	13:00 道普請	13:00 意見交換&地域課題解決ワークショップ
14:00 世界遺産センター 講話	14:00 熊野古道ウォーク ガイド	
15:30 自由時間（テレワーク）	15:00 熊野本宮大社 正式参拝	15:00 自由時間（テレワーク）
	16:15 自由時間（テレワーク）	
		17:20 白浜駅発（大阪へ）
		18:40 南紀白浜空港発（東京へ）

サステナブルエコツーリズムツアーで計画された以下の内容を本稿では体験プログラムと表記する。

1日目：11月24日（水）

- ① 熊野古道館（施設・滝尻エリア説明）
展示物を観ながら、熊野古道語り部から熊野古道に関する説明
- ② 熊野古道ウォーク（ガイド付）
牛馬童子口から近露王子まで約 1.5km を、熊野古道語り部のガイドによりウォーク
- ③ 世界遺産センター講和
世界遺産センターで「熊野古道の観光戦略」に関する講和

2日目：11月25日（木）

- ① 道普請
世界遺産である熊野古道の参詣道を自らの手で保全する体験
- ② 熊野古道ウォーク（ガイド付）
三軒茶屋跡から熊野本宮大社まで約 2.1km を、熊野古道語り部のガイドによりウォーク

- ③ 熊野本宮大社正式参拝
熊野本宮大社を正式な形式で参拝

2日目：11月25日（木）

- ① 里山の再生活動
「林業を通して土砂災害リスクの低い山を増やす」活動をしている現地企業の指導の元に、皆伐地への植樹を体験
- ② 地域の方との意見交換&地域課題解決ワークショップ
和歌山県で活動する方と一緒に地域課題の解決を考えるワークショップの開催
ワークショップのテーマは、「観光」、「ワーケーション」、「新規ビジネスの創出」

2. ワークーションの取り組み状況

ワークーションの取り組み状況を、ワークーション実施側の企業とワークーション受け入れ側の自治体の視点で述べる。

2.1. 企業でのワークーションの取り組み

企業では、「ワークーションを理解している総務担当者は 77.6%であるが、実際に実施している企業は 3.5%（株式会社月刊総務のワークーションに関する調査 2021.5）」という調査結果もあり、実施は進んでいないのが現状となっている。

富士通では、令和 2 年 7 月に発表した「Work Life Shift」というコンセプトにより、ニューノーマルにおける新たな働き方への取り組みを実施している。

Work Life Shift

固定的なオフィスに出勤する従来の通勤の概念を変え、多様な人材が高い自律性と相互の信頼に基づき、場所や時間にとらわれず、お客様への提供価値の創造による社会の変革に継続的に取り組むことができる働き方を実現するため、人事制度とオフィス環境整備、組織カルチャー変革の面から、様々な施策を推進する。

✓ **Smart Working（最適な働き方の実現）**

- ・コアなしフレックスの適用拡大
- ・在宅勤務環境整備の補助金支給
- ・単身赴任解消の促進
- ・家族事情による遠隔勤務
- ・**地方創生に向けた自治体との協定締結**
- ・**ワークーションの導入**

✓ **Borderless Office（オフィスのあり方の見直し）**

業務の目的にあわせ、自由に選択できるワーク環境の整備

- ・Hub Office
- ・Satellite Office
- ・Shared Office

✓ **Culture Change（社内カルチャーの変革）**

- ・1on1meeting の導入
- ・コミュニケーションツールを全社共通サービスとしてグローバルで提供
- ・スマートフォン全社員支給

Smart Working の取り組みとして「地方創生に向けた自治体との協定締結」と「ワークーションの導入」が挙げられている。

「地方創生に向けた自治体との協定締結」では、令和 3 年 3 月に大分県と協定を締結し、その次に同 10 月に和歌山県と協定を締結している。

「ワーケーションの導入」は、

- ✓ これまで難しかった長期の観光・帰省でリフレッシュして、本来の力を発揮して生産性向上
- ✓ 普段とは異なる環境(地域)での体験を通じて、新たな知見・アイデアを獲得し学び・成長の機会として活用

を狙いとして進めているが、取り組みは始まったばかりで、社員へのワーケーションの浸透が喫緊の課題となっている。

2.2. 自治体でのワーケーションの取り組み

ワーケーションを受け入れる側の自治体の取り組みとして、全国の自治体が集まって、「ワーケーション自治体協議会（WAJ）」が令和元年11月に設立された。会長は和歌山県知事が就任、65の団体（1道6県58市町村）でスタートし、令和3年12月末時点で202団体（1道22県179市町村）が加盟しており、自治体のワーケーションに対する関心の高さが伺える。



図 1-1 ワーケーション自治体協議会参加自治体数の推移

WAJのこれまでの主な取り組みは下記の通りである。

- ✓ 政府要望活動（令和2年7月、令和3年7月）
会員自治体の意見を集約し、政府の推進体制の構築や施設整備に係る財政支援などを要望
- ✓ Facebookを活用した情報発信（令和2年3月～）
各自治体が発信するワーケーションに関する情報を一元的に発信
- ✓ 会員自治体向けのオンラインセミナー（令和2年8月～）
民間企業や大学等から講師を招いて、ワーケーションに関する知見を共有

- ✓ ワークーション月間（令和2年11月、令和3年11月）
各自治体においてワークーション事業を集中的に実施
- ✓ 経団連及び日本観光振興協会とのモニターツアー事業（令和2年10月～）
経団連企業がW A J 会員の地域にて実際にワークーションを体験
- ✓ ワークーション・コレクティブインパクト（令和3年9月～11月）
都道府県単位で、地域課題をテーマに官民の垣根を越えて議論するイベントを全国複数か所で実施

上記のうち、令和3年度に新たに取り組んだワークーション・コレクティブインパクトの事例として、岡山県、長野県、鳥取県の取り組みを紹介する。

2.2.1. 岡山県におけるワークーション・コレクティブインパクト

岡山県では、官民参加型の地域課題解決型アイデアソンとして、ワークーションコレクティブインパクトツアーを実施した。

1)実施概要

日程：令和3年11月16日（火）～19日（金）

場所：岡山市、笠岡市、矢掛町、他

テーマ：観光型 MaaS (setowa) とストック（古民家等）を活用した地域づくり

参加者：17名（事務局、地元企業も含む）

2)スケジュール

Day 1 オリエンテーション、岡山駅周辺のストック（古民家等）見学

自由行動

Day 2 笠岡市の説明

白石島へ移動、現地見学、ワークショップ

白石島泊（夜、焚火を囲んで懇親会しながらアウトプット）

Day 3 海の校舎へ移動、現地見学

庄屋屋敷とくらへ移動、現地見学

矢掛町ワークーション施設見学（日本初アルベルゴディフーズ（分散型ホテル）認定）

自由行動

Day 4 自由行動

セミナー & グループ別成果発表会

参加者がワークーションに求める主なものとして、「豊かな自然環境」、「地元とのつながり」、「（企業として）SDGs への取組強化」、一方課題として、「自身の子育て」、「金銭的負担」、「会社の制度・上司の理解」、「インフラ不足」、「学校施設」を、本ツアーにおけるきづきとして抽出している。

観光型 MaaS である setowa を実体験した結果、「出張報告用に作成したスケジュールを出力した

い、「公共交通機関を伴わない移動も入力したい」、「setowa ポイントのような制度がうれしい」、「船の予約も出来るようになると良い」などの改善提案が提示されている。

ストック活用という視点では、笠岡市白石島のストック活用案として、

- ▶ ストック：休校の校舎、豊かな自然 × 課題：子育ての環境、子供の数
⇒解決策：休校も活用しながら島で育てる、休校で他地域子供向けの学習イベント
- ▶ ストック：海の校舎、地域の協力 × 課題：子供の数、海の後者の経営
⇒解決策：海の校舎をハブとした都市人材とのつながり

が、提示されている。

岡山県としては当ツアーにより、あらためて岡山県の地域課題の魅力やポテンシャルを認識することができ、さらに参加者や市町村等とつながりができたという効果を認識し、その後市と企業との連携による事業等を検討している。

2.2.2. 長野県におけるワーケーション・コレクティブインパクト

長野県では、多くの絶景ポイントと優しいお湯の温泉街がある長野県千曲市で、社会課題をテーマに専門家・参加者と学びを深める「信州周遊フィールドワーク&アイデアソン」を実施した。観光列車をカフェ利用できる「ろくもん駅カフェ」やお寺を貸切った「テラワーク」を体験しながら、仕事やフィールドワークで信州を満喫できるプログラムである。

1)実施概要

日程：令和3年11月17日（水）～20日（土）

場所：千曲市

テーマ：温泉ワーケーションを通じた、出会い・学び・協働の創造

参加者：40名（メディア関係者含む）

2)スケジュール

Day 1 ジビエ・ビーガン弁当（信州素材からゼロ・カーボンの学び）

街歩き/サイクリングツアー（信州のHUBの一つの千曲市を題材に地域資源や地域の現状を知る）

Day 2 参加者課題設定・アイデア出し1回目（グループ分けから）+自由ワーク時間

Day 3 自由ワーク時間+情報収集で周遊（長野県各地の資源情報収集も可）

OP：千曲市内温泉 MaaS 活用、しなの鉄道周遊きっぷで各所巡ること

Day 4 参加者グループ毎でのアイデアまとめ+発表

各テーマに沿った講師/関係者による講評

2.2.3. 鳥取県におけるワーケーション・コレクティブインパクト

鳥取県では、「都市人材と地域のつながりを進化させる」というテーマでワーケーションツアーを実施した。開催に当たっては、

- ✓ 経団連の関心が高い副業・兼業やワーケーションなど「働き方の変革」を軸に開催

- ✓ デザイナーの太刀川英輔氏が考案し、新たなイノベーションの思考方法として注目される「進化思考」を取り入れたワークショップを実施
- ✓ 最先端の議論と地域の実情の両面から理解が進むよう、ワーケーションや働き方改革の専門家と地元の実践者による事例発表、意見交換を実施

といったプログラムを組み込み、9名の外部講師を招聘した点が特徴的である。

1)実施概要

日程：令和3年10月19日（火）～22日（金）

場所：鳥取県一円

テーマ：都市人材と地域のつながりを進化させる

参加者：参加者13名、外部講師9名（オンライン参加2名）

経団連加盟企業、総務省、日本観光振興協会、地元企業等

2)スケジュール

Day 1 ワーク（鳥取砂丘視察、チームでのワーク）

現地視察、意見交換（鳥取県立ハローワーク、鳥取銀行ほか）

Day 2 現地視察、意見交換（隼 Lab、SUIKOWORKCAMP、一向平キャンプ場）

ワーク（一向平キャンプ場）

Day 3 現地視察、意見交換（TORICO、サテライトオフィス東光園）

ワーク（発表案作成）

Day 4 各グループによるプレゼンテーション（米子市内）

参加者からは、

- ✓ 進化思考を用いたワークショップが興味深かった
- ✓ 地域課題について地元事業者との意見交換ができてよかった
- ✓ 参加者同士で新たな関係性を構築することができた
- ✓ 休日を含めたブリーチャーのようなプログラムの方が参加しやすい
- ✓ 県東部、西部間でのマイクロワーケーションなどの可能性もあるのでは
- ✓ 鳥取県との連携や県内への拠点設置

など今後の取組に前向きな感想が多数挙がっている。

鳥取県側としては「参加企業からは県内への拠点支出を検討するなど前向きに捉えていただいた」という成果を得ている。

また、「ワークショップを中心とした企業も参加しやすいプログラムとしたが、参加者への配慮としてプログラム中に各々のワーク時間を設ける必要があった」という気づきを得ている。

2.2.4. 和歌山県におけるワーケーションの取り組み

和歌山県では、全国の自治体に先駆けて平成29年度より「ワーケーション」の取組を開始している。ワーケーションのテーマとして、

Work × Innovation × Collaboration

いつもと違う場所（普段の生活圏外）に滞在し、
いつもどおりの仕事を行いながら、
いつもと違う経験・体験をする
を掲げ、「いつもと違う経験・体験」をどれだけ価値のあるものにできるかが重要と捉え、ワーケーションを推進している。

和歌山県がワーケーション受け入れに適している理由として、以下の4つを挙げている。

- ✓ 首都圏とのアクセスの良さ
関西国際空港と南紀白浜空港という空の玄関口が2つあり、羽田空港までは約1時間
- ✓ ハード面の受入体制の充実
人口あたりのWi-Fi整備数は全国2位（2018年）であり、多様な利用ニーズに応えるワークプレイスや宿泊施設が揃っている
- ✓ ICT企業の進出・実証実験の実績
都市部のIT企業を中心にサテライトオフィスを整備しており、官・民による様々な実証実験の実績がある
- ✓ 世界に誇る豊富な自然・文化資源
Lonely Planet「Best in Travel 2021」の読者投票により、サステナビリティ部門で世界で唯一選出された

平成29年度～令和2年度の4年間で118社1,069名が和歌山県でワーケーションを体験しているという実績がある。

和歌山県でのワーケーション事業の経緯を示す。

平成29年度

- ✓ 首都圏企業を対象としたワーケーション体験会（全2回）で効果検証
- ✓ 東京で「ワーケーション・フォーラム」を開催

平成30年度

- ✓ 夏休み中に、都市部の家族を対象とした第1回親子ワーケーションを開催

令和元年度

- ✓ 総務省の補助金を活用し「関係人口創出拡大事業」でリーダーシップ研修を実施
- ✓ 前年度に引き続き、第2回親子ワーケーションを開催

令和2年度

- ✓ 「WAKAYAMA オンラインワーケーション」で和歌山県の魅力を情報発信
- ✓ プレーヤーが一堂に会する「リーダーズ・サミット」を白浜町で開催

令和3年度

- ✓ 和歌山県でのワーケーションの効果検証を定量的に行うファムツアーを開催

このようにワーケーションにおいて全国をリードする和歌山県であるが、更にワーケーションを拡大することが課題となっている。

3. エコツーリズムワーケーションの効果検証計画

今回のワーケーション効果検証の計画について述べる。

3.1. 検証する仮設

今回の効果検証は、ワーケーション受け入れ側である和歌山県の視点と、ワーケーション実施側の富士通社員の視点で、効果を検証し、エコツーリズムワーケーションの改善点を明らかにするものである。

検証する主要な仮設について、図 3-1 のワーケーション受け入れ側と実施側の二つの視点からのワーケーションについての課題体系図として表している。

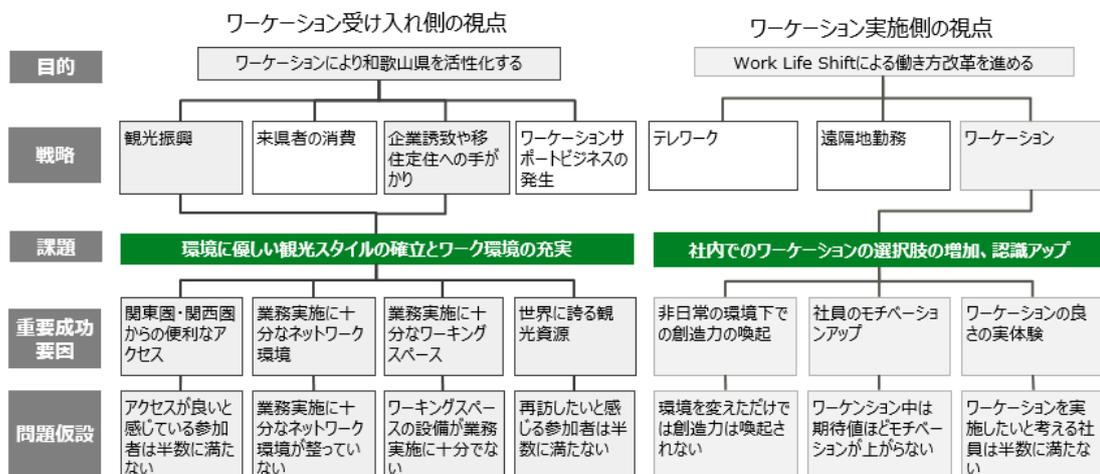


図 3-1 ワケーションについての課題体系図

ワーケーション実施側の和歌山県の課題として「環境に優しい観光スタイルの確立とワーク環境の充実」を設定し、これが達成されることで「観光振興」や「企業誘致や移住定住への手がかかり」ができ、上位の目的である「ワーケーションにより和歌山県を活性化する」に繋がる。

課題を達成するための重要成功要因として、

- ✓ 関東圏・関西圏からの便利なアクセス
- ✓ 業務実施に十分なネットワーク環境
- ✓ 業務実施に十分なワーキングスペース
- ✓ 世界に誇る観光資源

の4つを挙げ、各々に対して検証する仮設（問題表現の仮設）として、

- ✓ アクセスが良いと感じるワーケーション参加者は半数に満たない
- ✓ 業務実施に十分なネットワーク環境が整っていない
- ✓ ワーキングスペースの設備が業務実施に十分でない
- ✓ 和歌山県を再訪したいと感じるワーケーション参加者は半数に満たない

を設定した。

一方、ワーケーション実施側の富士通の課題として「社内でのワーケーションの選択肢の増加、認識アップ」を設定し、これが達成されることで「ワーケーション実施の増加」ができ、上位目的である「Work Life Shift による働き方改革を進める」に繋がる。

課題を達成するための重要成功要因として、

- ✓ 非日常の環境下での創造力の喚起
- ✓ 仕事に対するモチベーションアップ
- ✓ ワーケーションの良さの実体験

の3つを挙げ、各々に対して検証する仮設（問題表現の仮設）として、

- ✓ 環境を変えただけでは創造力は喚起されない
- ✓ 仕事に対するモチベーションは上がらない
- ✓ ワーケーションをまた実施したいと考えるワーケーション参加者は半数に満たない

を設定した。

3.2. 検証する方法

検証は以下の4つの視点で行う。

① 設備面

和歌山県へのアクセス、ネットワーク環境、ワーキングスペース設備に対して5段階評価と評価の理由をアンケートで取得する。

和歌山県へのアクセスについては実際の移動に費やした所要時間をアンケートで取得する。

ネットワークの評価についてはワーキングスペースで通信速度を測定しデータを取得する。通信速度は、Google社の「インターネット速度テスト」を使用して測定する。

② 体験プログラム

体験プログラムに対する5段階評価と評価の理由をアンケートで取得する。

体験プログラムの内容については1.2項参照。

③ ワーケーションによる内面変化

ワーケーションによる参加者の内面（創造力やモチベーションなど）の変化に対する5段階評価と評価の理由をアンケートで取得する。

④ 通常実施している業務との比較

通常実施している業務遂行を基準としたワーケーション中の業務遂行の比較を、5段階評価と評価の理由をアンケートで取得する。

図3-2に課題体系図と評価方法の関係、表3-1にアンケートの質問項目を示す。

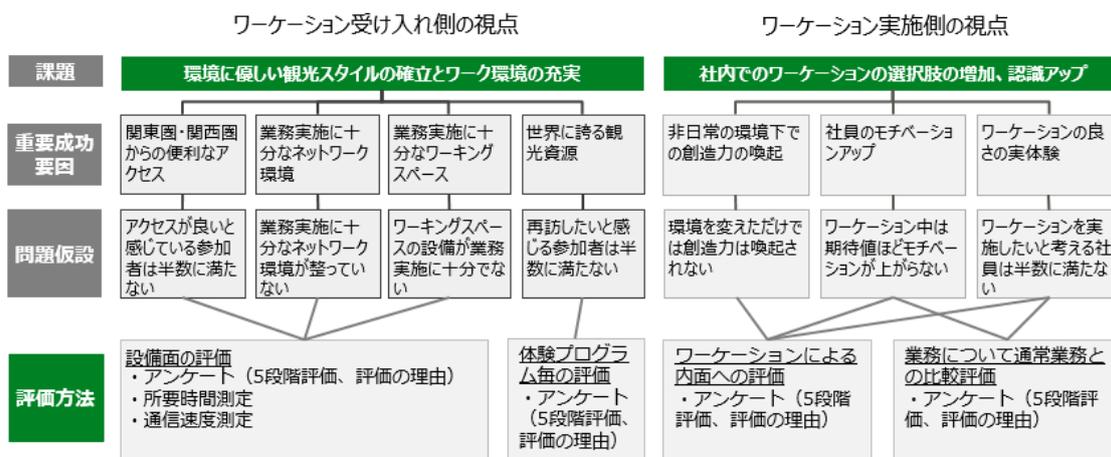


図 3-2 課題体系図と検証方法

表 3-1 アンケートの質問項目

質問カテゴリ	質問項目
①設備	①-1 和歌山県へのアクセス
	①-2 ネットワーク環境
	①-3 仕事をする上での設備（デスク回り、音など）
②体験プログラム	②-1 熊野古道館（施設・滝尻エリア説明）
	②-2 熊野古道ウォーク
	②-3 世界遺産センター見学
	②-4 熊野古道道普請
	②-5 熊野本宮大社参拝
	②-6 里山の再生活動
	②-7 意見交換会&ワークショップ
	②-8 川湯温泉
③ワーケーションによる内面変化	③-1 リラックスできるワーク環境
	③-2 集中できるワーク環境
	③-3 非日常空間（体験）でのリフレッシュ
	③-4 非日常空間（体験）での刺激
	③-5 健康増進
	③-6 地域関係者との交流やコミュニケーション
	③-7 地域における魅力の発見や満喫
	③-8 スキルアップ（成長の機会として活用）
④普段の業務との比較	④-1 仕事に対するモチベーション
	④-2 創造力の喚起
	④-3 業務効率
	④-4 仕事の質
	④-5 トラブル発生時の対応
	④-6 同僚や取引先とのコミュニケーション
⑤今後のワーケーション	⑤-1 ワーケーションの再実施
	⑤-2 和歌山県でワーケーションの再実施
	⑤-3 和歌山県に観光目的での再訪問
	⑤-4 理想のワーケーション
	⑤-5 今回のワーケーションについての感想

4. エコツアーリズムワーケーションの効果検証結果

ワーケーション効果検証の結果について述べる。

4.1. 参加者の基礎情報

今回のワーケーションには、富士通社員 18 名が参加した。

参加者の基礎情報を表 4-1 に示す。

表 4-1 参加者の基礎情報

	性別		年代				居住地		ワーケーションの 経験回数	和歌山への 訪問回数 (仕事除く)
	男性	女性	20歳 代	30歳 代	40歳 代	50歳 以上	関東圏	関西圏		
A	✓			✓			神奈川県		1回	6回
B		✓		✓			東京都			
C		✓	✓				東京都		1回	
D		✓	✓					大阪府	1回	5回以上
E	✓		✓					大阪府		4回
F		✓	✓				神奈川県			
G	✓		✓				神奈川		1回	4回
H	✓					✓		兵庫県		3回
I	✓				✓			大阪府		10回以上
J	✓				✓			大阪府		6回
K		✓		✓			神奈川県			2回
L		✓	✓					大阪府		6回
M	✓		✓					大阪府		4回
N	✓		✓					大阪府		10回以上
O		✓	✓				東京都			
P	✓					✓	神奈川			10回以上
Q	✓					✓	神奈川			2回
R	✓					✓	神奈川			
計	11	7	9	3	2	4	10	8	4	13

今回のワーケーションはトライアルということもあり、参加者からの応募ではなく富士通側主催者からの指名による参加となった。このため、参加者の職種は人事・総務系、営業系と特定の職種となっている。

和歌山県へのアクセスについて、関東圏からと関西圏からの評価をするため、関東圏から 10 名と関西圏から 8 名が参加した。

これまでにワーケーションを経験した参加者は 4 名であり、全員 1 回経験があるのみということから、富士通内ではまだまだワーケーションが浸透していないことが伺える。なお、4 名中 3 名が出身地近辺をワーケーション先として選んでいることから、「ワーケーションを活用して故郷へ帰る」という傾向があるということが推測できる。

仕事以外で和歌山県を訪問したことがある参加者は 13 名、関西圏在住者は全員 3 回以上訪問

しているのに対し、関東圏在住者の 5 名は訪問なし、と地域差がハッキリと出る結果となった。訪問先としては、白浜エリアが最も多く、次いで和歌山市エリア、熊野・勝浦エリアである。

4.2. 和歌山県へのアクセスの評価

和歌山県へのアクセスについての評価は、居住地により関東圏と関西圏に分けて評価する。最初に関東圏、図 4-1 に関東圏在住者の和歌山県へのアクセスの評価を示す。

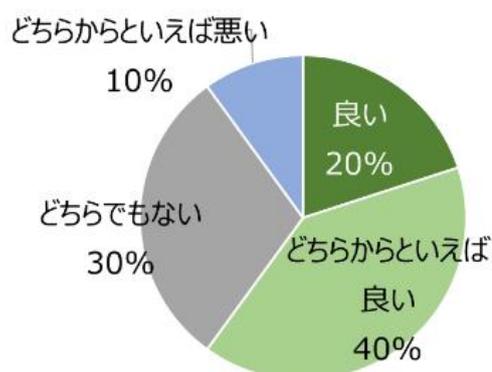


図 4-1 関東圏在住者のアクセス評価

「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 60%となり、好評である。「羽田空港から 1 時間で行ける」のが好評の理由である一方で、航空関連設備について改善を望む声も出ている。

- ✓ 飛行機が 1 日 3 便と少ない
今回の帰路が金曜夕方であり、飛行機の予約がキャンセル待ちとなった
- ✓ 南紀白浜空港の設備が不足
今回の帰路では搭乗口や喫茶店が大混雑となり、飲食売店もなく食べ物に困った

図 4-2 に関東圏在住者が自宅を出発してから南紀白浜空港に到着するまでに費やした時間を示す。

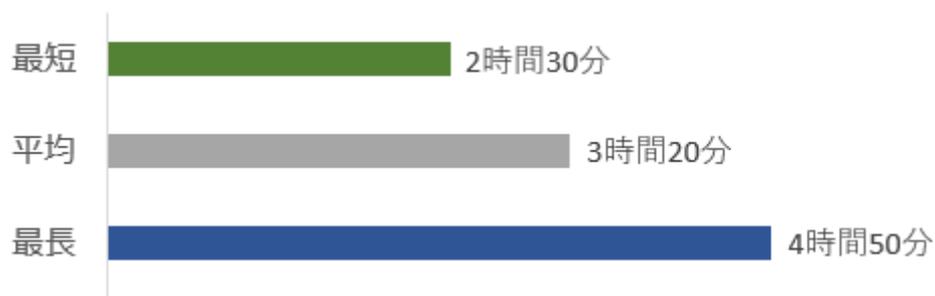


図 4-2 関東圏在住者が移動に費やした時間

移動に費やした時間を見ると平均 3 時間 20 分、飛行時間は約 1 時間であることから 2 時間 20 分

が飛行以外の時間となる。

続いて関西圏、図 4-3 に関西圏在住者の和歌山県へのアクセスの評価を示す。

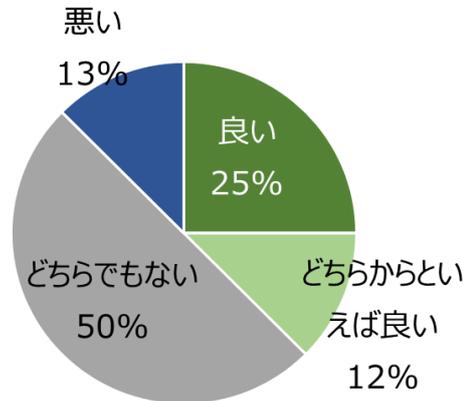


図 4-3 関西圏在住者のアクセス評価

「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 37%、「どちらでもない」が 50%であり、関東圏と比べると評価は低い。「大阪主要駅から特急 1 本で行ける」という好評の理由である一方で、「片道 2 時間以上かかる（今回の集合場所である紀伊田辺まで）」という声があがっている。

図 4-4 に関西圏在住者が自宅を出発してから南紀白浜空港に到着するまでに費やした時間を示す。

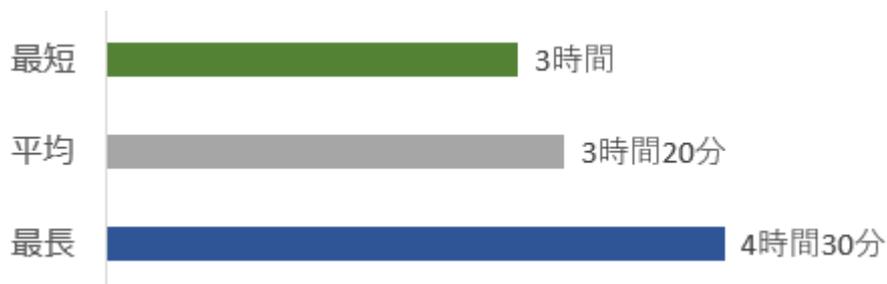


図 4-4 関西圏在住者が移動に費やした時間

移動に費やした時間は平均 3 時間 22 分と関東圏と同等、JR 乗車時間 2 時間 20 分として、乗車時間以外は約 1 時間となる。

[考察]

全移動時間で見ると関東圏と関西圏で大差はないが、関東圏では全移動時間の内の搭乗時間は約 3 割、関西圏では全移動時間の内の乗車時間は約 7 割、関東圏に比べて関西圏の評価が低くなった理由ではないかと考察する。

4.3. 通信環境の評価

通信環境の評価については、ワーク実施場所であり宿泊施設での評価を行う。

図 4-5 に通信環境の評価を示す。「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 83%となり、高い評価を得ている。

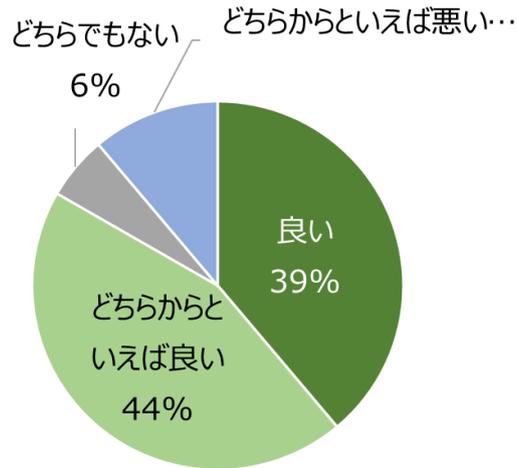


図 4-5 通信環境の評価

図 4-6 に部屋で測定した通信速度の分布を示す。通信速度は、Google 社の「インターネット速度テスト」を使用して、参加者 18 名がワーク場所である各々の部屋で測定した結果を集約している。

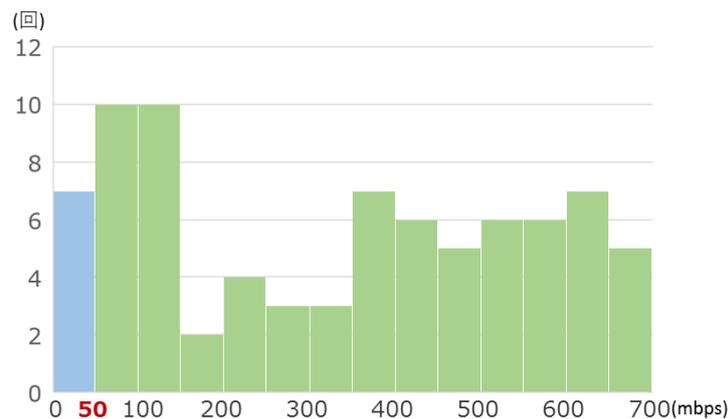


図 4-6 部屋で測定した通信速度の分布

[考察]

通信速度の分布ではばらつきはあるが、一般的に動画再生に必要な速度が 25Mbps と言われてい

る点を評価軸とすると、その 2 倍である 50Mbps 以下は全体の 9%であり、通信環境としては問題がないと判断できる。

ただし、「どちらかといえば悪い」が 11%、人数でいうと 2 名が低評価をしている。評価理由として、

- ✓ フリーWi-Fi は 3 分に 1 回ほどネットワークの調子が悪かった
- ✓ フリーWi-Fi はとても電波が弱く、業務をストレスなくできる環境からはほど遠かった

を挙げている。この 2 名が宿泊した部屋のみ何らかの理由で電波環境が悪い可能性があり、追加の調査が必要である。

4.4. ワーキングスペースの評価

ワーキングスペースの評価については、ワーク実施場所であり宿泊施設の評価を行う。なお、当該宿泊施設は仕事を行う設備はまだ準備しておらず、今後ワーケーションの受け入れを進めていくために、今回の評価結果を踏まえて設備を充実していくという状況である。

図 4-7 にワーキングスペースの評価を示す。「悪い」と「どちらかといえば悪い」を合わせると 56%となり、低い評価が半数を超えている。

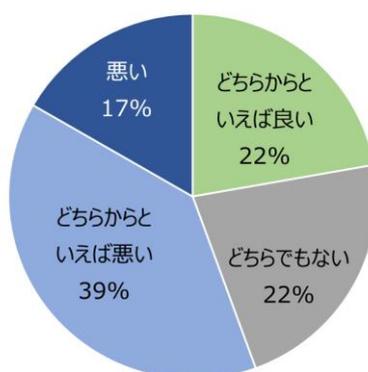


図 4-7 ワーキングスペースの評価

部屋について、良い評価としては、「スペースが広い」、「静かで、鳥の囀りが心地よかった」という理由が上がっている。

一方悪い評価で最も多かったのが「テーブルと椅子の高さがデスクワークに向いていない」という点。窓際に設置されたテーブルと椅子は、机が低く前かがみにならないとデスクワークができないため、体制が悪くなる。畳の上に設置されたテーブルは座椅子に座って使うことになるが、座椅子に長時間座っていると腰が痛くなる。また、コンセントからテーブルまでが離れており、パソコンの AC アダプターが届かなかった。「延長コードが常設されているとよい」という声が挙がっている。



図 4-8 部屋の設備

部屋以外にもワーキングスペース候補を用意されており、それらについても評価コメントを示す。

[食事スペース]

- ✓ 広い点はよかったが、コンセントが遠かった
- ✓ 静かで仕事はしやすかったが、時折掃除機の声で集中できなかった
- ✓ エアコンが止まっており寒かった



図 4-9 食事スペースのワーキングスペース

[中庭]

- ✓ 丸太の机と椅子で雰囲気はいい
- ✓ コンセントもなく、仕事ができる設備ではない



図 4-10 中庭のワーキングスペース

[川のほとり]

- ✓ すぐ横に川があり、環境としてはよい
- ✓ ホテルの Wi-Fi は接続できなかった
- ✓ ガラステーブルに水滴がついており PC の利用は厳しいが、フロントでタオルの貸し出しがあればよい



図 4-11 川のほとりのワーキングスペース

[考察]

ワーキングスペースの設備の充実はこれから、という状況であったため厳しい評価にはなっているが、リラックスして集中してワークができる潜在能力はあるため、今回のコメントにあるようなワークを実施する上での設備の充実を実施することで、ワーク環境としての問題は解消される。

4.5. 体験プログラムの評価

以下の体験プログラムについて評価する。

- ✓ 熊野古道ウォーク
- ✓ 熊野本宮大社正式参拝
- ✓ 熊野古道館
- ✓ 世界遺産センター見学&講和
- ✓ 道普請
- ✓ 里山の再生活動
- ✓ 意見交換会
- ✓ 川湯温泉

図 4-12 に、プログラムに対する実施前と実施後の評価を示す。実施する前の時点での「プログラムを楽しみにしている人の割合」と実施した後に「良かった」と「どちらかといえば良かった」の人の割合を比較したグラフである。

実施前の評価（楽しみにしている）では、熊野古道ウォークが 61%と最も高く、川湯温泉(56%)、熊野本宮大社参拝(50%)、意見交換会(50%)が 50%以上で続く。以降、世界遺産センター見学(44%)、道普請(39%)、熊野古道館(39%)、里山の再生活動(28%)と続く。

実施後の評価では、熊野古道ウォークと熊野本宮大社参拝が 89%で最も高く、道普請と意見交換会も 83%と 8 割を超えている。以降、川湯温泉(78%)、里山の再生活動(72%)、熊野古道館(67%)、世界遺産センター見学(61%)と続く。

全てのプログラムが実施前より実施後の方が高い評価となっている。特に、道普請と里山の再生活動は実施前より 44 ポイント上がり、期待値を大きく超える結果となっている。

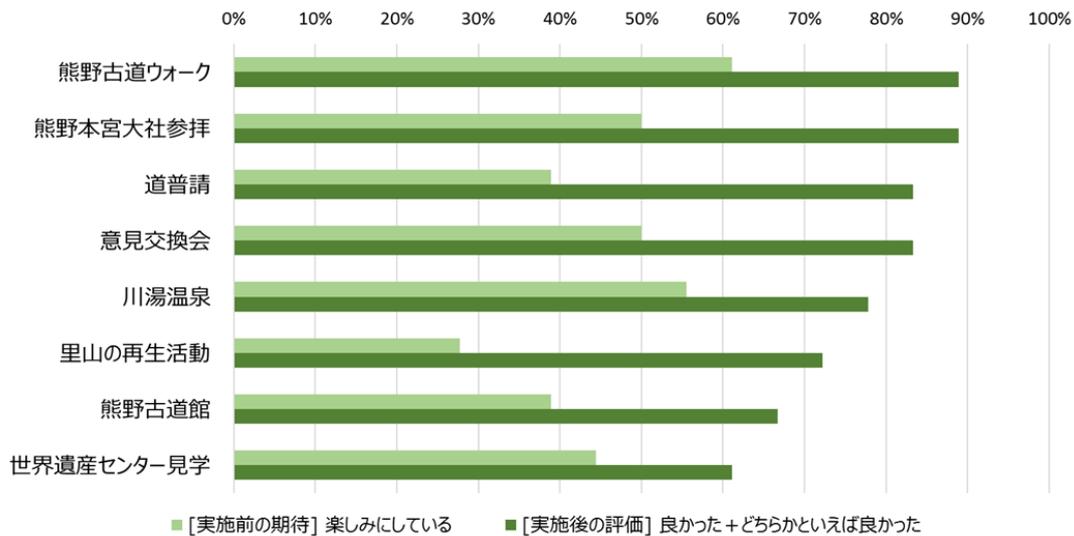


図 4-12 プログラムに対する実施前と実施後の評価

[考察]

実施後の評価が高い上位3つ（熊野古道ウォーク、熊野本宮大社参拝、道普請）は、いずれも**体を動かす**プログラムである。下位2つ（世界遺産センター見学、熊野古道館）は**話を聞く**プログラムである。「話を聞く」より「体を動かす」体験の方が高い評価を得るという傾向が出ている。

4.5.1. 熊野古道ウォークの評価

熊野古道ウォークの評価を図 4-13 に、参加者の評価コメントを表 4-2 に示す。

「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 89%と高い評価となっており、「悪い」、「どちらかといえば悪い」の評価はゼロである。

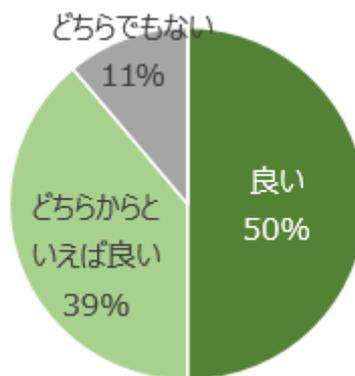


図 4-x 熊野古道ウォークの評価

表 4-2 熊野古道ウォークへの参加者の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	歩くという体験	説明に加え体験することで、歴史の重みを感じた
		歩いてみてこそ熊野古道がどのような道かがわかるので、まず歩くことは重要 実際に目で見えて歩いた方が格段とイメージが良かった
		全行程を番号に振り分けて緊急時に即時に対応できるような仕組みは素晴らしい 古の道をたどると言う事を体感出来て良かった
		とても分かりやすく説明をして下さった
	語り部さんの説明	お話を聞くことで、より熊野古道の歴史・文化を感じられてよかった 天皇陛下も訪問された時の話など、普段は聞けないことが伺えた ポイントを説明してもらいながら歩いたので、より深く理解できた
		所用時間・歩く距離
問題点	語り部さんの声が聞こえない	語り部さんとの会話がありませんでした
		男女の歩く速さが違い、男性が先方を歩くと語り部さんが遠くになってしまい、何を解説しているか聞き取れなかった 列が大変長くなり、前後の間も離れてしまい、説明がなかなか聞きにくい
	歩くスピードが速い	時間に追われていたのか、歩くスピードが大変早かった
改善点		語り部さんがいない場合、勉強できるような仕組み（看板とか）があれば良い
		4～5人位で歩くのがいい
		ゆっくり歩くタイムスケジュールが必要

[考察]

良い点として、「歩くという体験」、「語り部さんの説明」、「所要時間・歩く距離」が挙がっている。世界遺産である熊野古道を「歩くという体験」に、自分達だけではわからない「語り部さんの説明」が加わったことで、この体験の価値が高いものになっている。

悪い点として「語り部さんの声が聞こえなかった」が挙がっていることも「語り部さんの説明」の高価値の裏返しの評価である。今回は、18名を男女混合の2グループ分けたため、9名が1列になって歩くことで列が長くなり語り部さんの声が後方まで聞こえなかった。

「所要時間・歩く距離」は個人によって評価が割れる結果となった。

熊野古道ウォークをより良い体験にするには、「語り部さんの声が全員に届き、参加者全員が気持ちよく歩ける」ことが重要であり、それはグループ編成や体験時間の工夫することで実現可能である。

4.5.2. 熊野本宮大社参拝の評価

熊野本宮大社参拝の評価を図 4-14 に、参加者の評価コメントを表 4-3 に示す。

「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 89%と高い評価となっている。

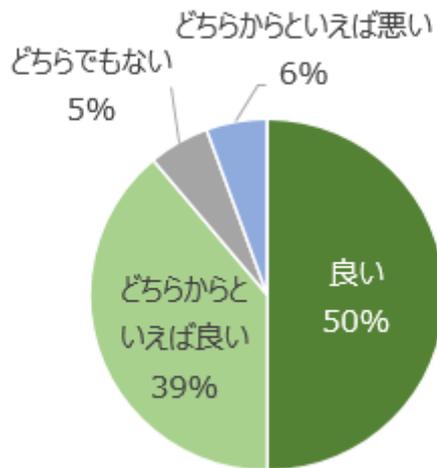


図 4-14 熊野本宮大社参拝の評価

表 4-3 熊野本宮大社参拝への参加者の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	非日常体験	通常では入ることができない箇所からお参り
		滅多にできない貴重な経験
		正式参拝の際にしか入れない場所に入れていただいたり、正式参拝後のお話し等、普段お参りに行くのとはまた違った経験
		本殿のなかへはいれたのは貴重な体験であった
		内部は凄いオーラがあり圧倒された
		貴重な体験となり、とても感動
		中に入って参拝するという行為にとっても感動
		社殿の近くまで入れてもらい、また神職の直接のお祓いが受けれて良かった
		貴重な経験ができて、とてもよかった
		通常では入れない場所で参拝できた
		正式参拝は初めて
問題点	話が聞こえなかった	人数が多く神事の際に聞こえづらい部分があった 途中神職の話が太鼓と被って聞こえませんでした
	ワークへの影響	肉体的に疲労がたまるため、その後にテレワークは集中できないかと感じた

[考察]

良い点として、「非日常体験」が挙げられている。今回は正式参拝ということで、一般の観光では入ることができない場所で参拝ができ、神職から熊野本宮大社の説明を聞くことができた。このツーリズムならではの非日常体験は非常に価値のあるものであった。

問題点として挙げられている「神職の声が聞こえなかった」ことはせっかくの価値を下げることになるため、改善を提案する。

4.5.3. 道普請の評価

道普請の評価を図 4-15 に、参加者の評価コメントを表 4-4 に示す。

「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 83%と高い評価となっている。参加前のアンケートで「楽しみにしている」は 39%であったため、44 ポイントのアップとなっている。

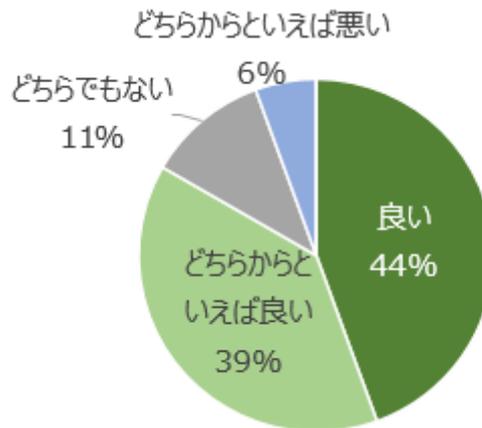


図 4-15 道普請の評価

表 4-4 道普請への参加者の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	実体験	実際に手を動かして体験することで少し身近に感じて理解することができた
		普段は体験できないので価値がある
		サステナブルエコを実体験できた
	社会貢献	自分が作業しているところを旅の方が歩いているというのは、とても気持ち的に満ち足りた感じ
		世界遺産の保全活動として、社会貢献の充実感が持てる
		普請の前と後では、熊野古道を歩く感覚が少し異なったので、どちらの体験もできたことはとてもよかった
		大切な遺産をみんなの力で守っていかなければならないと強く感じた いろいろな人が関わることの大事さを改めて感じた
問題点	体験の内容	少し作業量が少なかった
		楽しいが汚れる
		あまり熊野古道を道普請しているという感はなかった
	ワークへの影響	肉体的に疲労がたまるため、その後にテレワークは集中できないかと感じた
改善点		作業量を多くするか、チームに分かれるなどしてもいい
		もう少し（半日単位）時間をかけて体験するのがベター
		貢献量の見える化は今後できたらいい

[考察]

良い点として挙げたのは、「実体験」と「社会貢献」。熊野古道を自ら普請するという「実体験」が、熊野古道を歩く人の役に立つという「社会貢献」になるという体験ができたことは非常に貴重である。

問題点として挙げられている「作業量が少なかった」は個人差のある評価ではあるが、道普請をより多くの人が体験することも考えてのことであろう。

4.5.4. 意見交換会 & ワークショップの評価

意見交換会 & ワークショップの評価を図 4-16 に、参加者の評価コメントを表 4-5 に示す。

「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 83%と高い評価となっている。

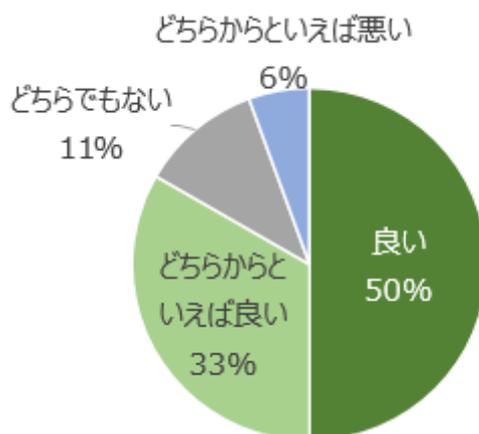


図 4-16 意見交換会 & ワークショップの評価

表 4-5 意見交換会 & ワークショップへの参加者の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	地域課題を通じた新しい知見、思考	和歌山県の観光振興や ビジネス創出に結びつけるための思考を養う ことができた
		新しい知見 が広がりました
		地域の課題を一緒になって考え 、刺激になる時間
		より 具体的に地方の課題について知る ことができた
		我々が 取り組むべき課題が理解 できたと思います。
		現地の課題を理解 し、改善策を提案できた
		地元側がワークショップに求めているものを直接聞けた
	地域に貢献できているような気持 になり、心が豊かに	
	地域交流	地域の方々と交流でき、チームビルディングにもなってよい機会
		交流出来、今後のネットワークづくりに役立った
社内交流	現地の人と意見交換できる場としては有効	
	普段一緒に仕事をしていない人たちと一緒に考えるのは刺激があった 他部署の方々の意見を聞くことも新たな考えや発想につながる	
問題点	時間不足	他のチームの地域の方の話も聞いてみたかった 議論は少し生煮え の状態で終わってしまったのが残念
	場の運営	お互いがどう進めていいかが分からず、ただただ話す時間になりつつあった 与えられたテーマに対するアウトプットを出すのが難しい
改善点		プログラムの最初の方にやってもよかった また交流する機会を設ければ、地域課題の本当の解決に繋がる
		グループ入れ替えながら長く行っても良い
		最初の現地の方のインプットについては、プログラムの前に行っても良かった

[考察]

良い点として、「地域課題を通じた新しい知見、思考」と「地域交流」、「社内交流」という人との交流が挙げられている。地域の方から直接話を聴き、一緒に地域課題について考える時間を持てたことで、参加者へ良い刺激を与えることができた。

問題点として「時間不足」、「場の運営」が挙げられており、良い場であっただけに少し不完全燃焼になってしまった点は残念である。

4.5.5. 川湯温泉の評価

川湯温泉の評価を図 4-17 に、参加者の評価コメントを表 4-6 に示す。

「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 78%と高い評価となっている。

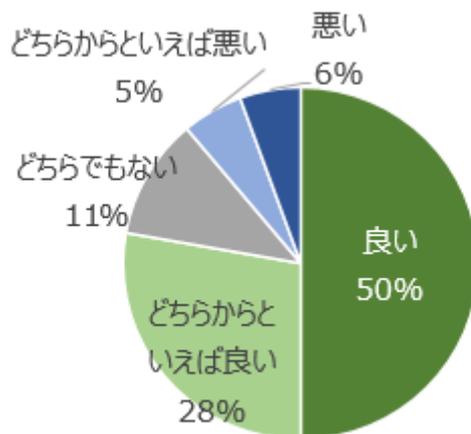


図 4-17 川湯温泉の評価

表 4-6 川湯温泉への参加者の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	周囲の環境	開放的で非日常的な気分 を味わうことができた
		普段訪れない地域で、現実から離れられた
		周りに何も無いところが良かった
		ホテルの窓から 川が一望出来て豊かな気持ち になった
		部屋にいと静かな環境で仕事するにも集中できる環境と感じた
		部屋からの眺望もよく、ゆったりできた
	宿泊施設	部屋の広さ、お食事、温泉どれも満足 です
		川沿いの露天風呂が気持ちいい
		お湯も良かったですし、お宿も快適
		部屋も綺麗であり、食事も充実しており、リラックスして過ごすことができた
問題点	ワーケーションの宿	露天風呂が混浴で気を遣う ためかリラックスはしづらかった
		温泉が混浴 となっており、湯着のようなものが準備されているとはいえ、会社側の準備した宿泊施設としては注意が必要
		ワーケーションに必須のものではない
		少し豪華 すぎた

[考察]

良い点として、「周囲の環境」、「宿泊施設」が挙がっている。良い意味で周囲には何もなく、自然豊かであることで普段では感じられない非日常の環境で、宿泊施設としても部屋の広さや食事、温泉が充実していることが評価の理由である。

一方で、今回は会社主催のワーケーションであり、その視点で見ると露天風呂や豪華な食事が少し過ぎたのではないかという声も出ている。

4.5.6. 里山の再生活動の評価

里山の再生活動の評価を図 4-18 に、参加者の評価コメントを表 4-7 に示す。

「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 72%の評価となっている。参加前のアンケートで「楽しみにしている」は 28%であったため、44 ポイントのアップとなっている。

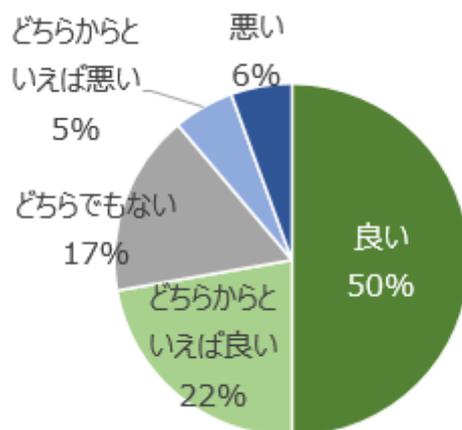


図 4-18 里山の再生活動の評価

表 4-7 里山の再生活動への参加者の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	非日常体験	普段体験できないことであったこと
		なかなか体験できないことが体験できた
		地域に還元される活動で、チームビルディングとして考えても非常に有用な活動
		サステナブルな考えを意識することができた
		森林に関する説明も大変分かり易く、その必要性も強く感じられました
		体験することで林業の重要性と大変さが実感できた
		大切な遺産をみんなの力で守っていかなければならないと強く感じた
		いろいろな人が関わることの大事さを改めて感じた
	地域の人からの刺激	自分自身と同年代の人達が起業をしたり、林業という自分の知らない世界で活躍していることにとっても刺激を受けました
		取り組んでいる若い世代の方からお話を伺う機会があり、そして実際にその大変日本の森林の状況や森の大切さを知ることができたのはとてもよかった
若い方たちが会社を作ってみんなの力で里山の保全を目的とした活動を実施されている現状に大変感銘をうけた		
問題点	情報不足	想像以上にハード
		非常に危険な場所、作業でもあるので、事前の服装（特に靴）の案内はしっかりしてほしかった
		あの場所への植林と想像していなかったため、びっくりしました
		想像より過酷であったため、服装等事前情報頂ければ嬉しい
		危ない、滑る、汚れる
		木橋を渡るの時間がもったいない
		高所恐怖症、ただひたすらに怖かった
改善点		半日以上で体験できると良い
		植樹した木の様子をライブカメラなどでチェック貢献量の見える化は今後できたらいい

[考察]

良くも悪くも「思っていた体験と違う」というのが参加者の本音である。事前に得た情報は植林活動だけであり、「公園などの平地に植林するだろう」とイメージしていた。実際は山の急斜面への植林であり、これが「非日常体験」という良い評価につながった。一方で、想定外のことで服装や気持ちの準備ができておらず、評価が下がる結果となった。これらは事前に情報を提供することで、解決されることである。

若い世代の方が中心となり里山保全活動をしていることに刺激を受けた、というコメントも多く、これは現地で体験しなければ得ることができない。

4.5.7. 熊野古道館の評価

熊野古道館の評価を図 4-19 に、参加者の評価コメントを表 4-8 に示す。

「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 67%という評価となっている。

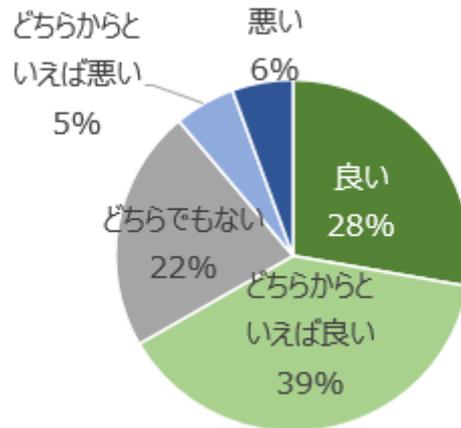


図 4-19 熊野古道館の評価

表 4-8 熊野古道館への参加者の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	熊野古道の導入	導入として 熊野古道当時どんな存在だったのかを知ることができた
		熊野の全体像やそれぞれの道の意味 が分かった
		天皇陛下も訪問された時の裏の話など、普段は聞けないことも伺えた
		展示物のどこを見たらいいのか、そういったことも言葉で話していただけるので分かり易かった“藤原定家の字が汚い”“辛いという愚痴のようなことがたくさん書いてある”という説明がありましたが、あの説明のお陰で、熊野と藤原定家を忘れない”
		熊野古道に関する基礎知識を得ることができた
		実際に歩く前に説明していただくことで、 ただ歩くだけでなく理解が深まった
		全体マップを使って説明していただいたので、そのあと 歩く道や各道の特徴をつかむことができた
		「熊野古道」の導入としては最低限の説明が施されていた
		歴史を感じられた
		古道の歴史的背景 など知識がないのでとても役立った
問題点	時間不足	説明の時間が短い
		滞在時間が短く 、展示物を見ることができなかった

[考察]

参加者は熊野古道とはどういうところなのか、という知識がほとんどない状態で参加したため、プログラムの最初にその説明を聞くことができ、これから体験する熊野古道の基礎知識を得ることができた。これが良い点として挙がっている。

問題点としては時間が短かったこと。説明時間が短い、熊野古道館の展示物を見る時間がなかった、という声が挙がっている。

4.5.8. 世界遺産交流センターの評価

世界遺産交流センターの評価を図 4-20 に、参加者の評価コメントを表 4-9 に示す。
「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると 61%という評価となっている。

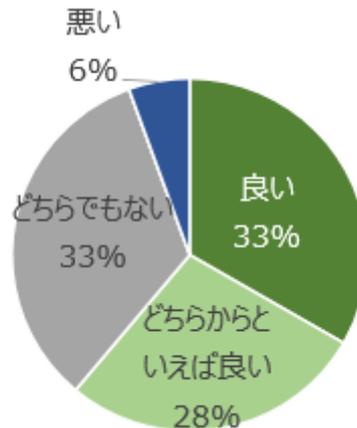


図 4-20 世界遺産交流センターの評価

表 4-9 世界遺産交流センターへの参加者の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	講和の内容	勉強になるお話が多かった 和歌山県の観光戦略のもとに、熊野に訪れるストーリー形成は、未来の持続可能な観光の在り方に通ずるものがある
		お話は非常に貴重 と感じた。観光業について考えるきっかけとなる。
		なぜ和歌山の観光が世界の指折りになったのか、その理由がわかったことで、少し深く観ることができる。また、 観光以外の分野でも参考になる話
		参考になる話が多くあり、とても勉強になりました。
		アプローチ方法など、すごく勉強になりました。
		海外の方に向けてのプロモーションビデオで新しい視点を得た ビジネスの手法にも通ずるものがある と感じたので大変参考になった
問題点	会場の設備	会場が少々寒すぎた (7人)
	講和の運営	マスクで聞き取りにくいところがあった
		資料のボリュームも多く、 説明を一方向的に聞く形式 に近くなってしまった
		少し時間が長かった
		歩いた後だったため、途中うとうとして話があまり入ってこなかった
話のメインテーマがよくわかりませんでした		
時間不足	施設内を観る時間がなかった	
改善点		この講話が全プログラムの一番最初にあると良い
		都度に質問などを受ける形式 にしてもらった方が意見が出やすかった
		机があると、聞きながらメモを取る こともできた
		もう少し観光推進の戦略やビジネス要素に近い観点の話を知りたかった
		サステナブルツーリズムとして、環境だけでなく社会や文化に対して行っている取り組みも知りたかった

[考察]

講和は和歌山県の観光戦略ストーリーを知るとともにその考え方や行動について話していただき、ビジネス面でも大変参考になる内容であった。が、せっかくの良い講和が「会場の設備（寒過ぎた）」や「講和の運営」面で評価が下がる結果となった。

4.6. 参加者の内面変化の評価

今回のエコツーリズムワークショップにより、参加者の内面にどのような変化をもたらしたのかを評価する。

図 4-21x に、エコツーリズムワークショップによる内面変化に対する実施前と実施後の評価を示す。実施前する前の時点での“期待している人の割合”と実施した後に“「できた」と「どちらかといえばできた」の人の割合”を比較したグラフである。

実施前の評価（機体している）では、地域における魅力の発見や満喫が 83%と最も高く、非日常空間でのリフレッシュ(61%)、地域関係者との交流、コミュニケーション(56%)、リラックスできるワーク環境(56%)、非日常空間での刺激(50%)が 50%以上で続く。スキルアップ(17%)、健康増進(11%)、集中できるワーク環境(11%)は期待値としては低い。

実施後の評価では、地域における魅力の発見や満喫が 95%で最も高く、実施前の期待値を超える結果となっている。非日常空間でのリフレッシュと非日常空間での刺激が 89%であり「非日常」という環境が内面に与えた影響が大きい。スキルアップが 78%と実施前から 61 ポイントアップしており、期待値を大きく上回っている。健康増進(61%)と集中できるワーク環境(56%)も実施前から 50 ポイントアップとなっている。と 8 割を超えている。以降、川湯温泉(78%)、里山の再生活動(72%)、熊野古道館(67%)、世界遺産センター見学(61%)と続く。

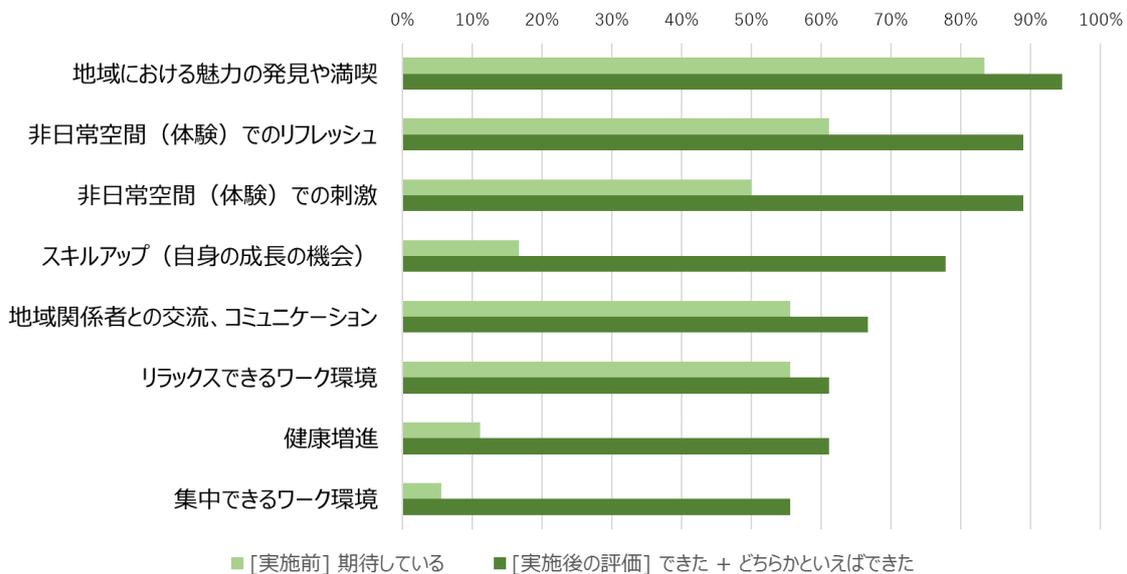


図 4-21 エコツーリズムワークショップによる内面変化に対する実施前と実施後の評価

[考察]

全てのプログラムが実施前より実施後の方が高い評価となっている。特に上位4項目については、実施前に期待が高かった「地域における魅力の発見や満喫」が期待通りであり、「非日常」という体験によりリフレッシュできるとともに刺激を受けたことが、自身の成長の機会となり「スキルアップ」に繋がったのではないかと推察する。

4.6.1. 地域における魅力の発見や満喫の評価

地域における魅力の発見や満喫の評価を図4-22に、参加者の評価コメントを表4-10に示す。「できた」と「どちらかといえばできた」を合わせると95%という高い評価となっている。高い評価の理由は、和歌山県や熊野古道の歴史や魅力を、体験を通して地域の方から学べ「これまでに知らなかった新しい発見」があったことが挙げられている。

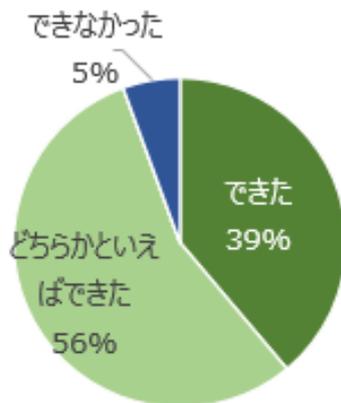


図 4-22 地域における魅力の発見や満喫の評価

表 4-10 地域における魅力の発見や満喫の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	新しい発見	歩きながら 語り部さんに話してもらって 、どんな信仰があったのか、この道はどんな道なのか等を知ることができた
		3日間の体験を通じて何が和歌山県を形成しているかを発見できた
		熊野古道は三道あることすら知りませんでしたので、今回参加し、身につくものは多かった
		和歌山の歴史を恥ずかしながら存じておらず、自然や神社含めとても魅力的な県であることを実感しました
		"新しい魅力"をまた発見出来ました。 現地の方から直接教えていただく情報と言うのはとても有益
		3日間という時間のなかでは、たくさんの新しい発見があったと思います。
		田辺エリアの魅力は、非常に感じられました。
		熊野地域の良さ（特に牧歌的な所）を感じた
		説明をうけたのは初めてだったので、よかった
		和歌山についてほぼ知らなかった状態なので、満喫できた
		体験イベント、秘境地であることで魅力は発見できた
問題点		山と温泉しか見てないので内容が薄い

4.6.2. 非日常空間でのリフレッシュの評価

非日常空間でのリフレッシュの評価を図 4-23 に、参加者の評価コメントを表 4-11 に示す。

「できた」と「どちらかといえばできた」を合わせると 89%という高い評価となっている。

高い評価の理由としては、熊野という自然の中で非日常の時間が過ごせたことが挙げられている。

一方で、「業務との両立」、「時間不足」が理由でリフレッシュには至らなかったという声も挙げられている。

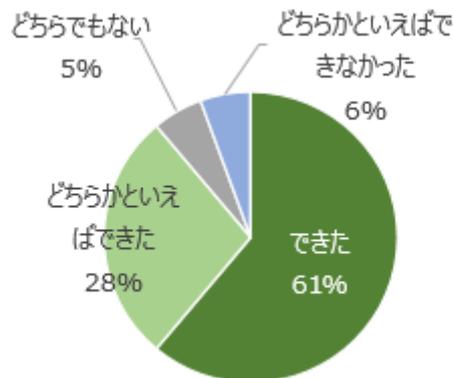


図 4-23 非日常空間でのリフレッシュの評価

表 4-11 非日常空間でのリフレッシュの評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	非日常	南紀白浜の海や、熊野古道の自然にふれられることはとてもよかった
		温泉や熊野古道など リフレッシュできる体験 が多く、癒された
		山や海の自然に囲まれ、熊野古道を歩いたり温泉に入ってる時は、日常から離れて爽
		鳥の声しか聞こえないワーキング は初めての経験で非常にリフレッシュできた
		色々と、観光・遊びのような非日常の体験と捉えると良かった
		非日常という、新しい刺激 で常リフレッシュできる環境で仕事をやると重要さを感じた
		非日常空間で仕事とリフレッシュが両立できた
		いつもの業務や、 普段の旅行では経験できないことをたくさん経験 させてもらった
		余計な考えを捨て、頭のリフレッシュになった
	勤務形態	コロナ禍の影響もあり、外出機会が減少していたため テレワークのためほとんど家から出ることがなかった
問題点	業務との両立	業務の一環と捉えると何とも言えない
		リフレッシュ目的のワーケーションであるならば、個人で行った方がよい
		会社の関係者との3日間ということで完全にリフレッシュとはいかなかった
		毎日何かしらの プログラムが詰め込まれていた ため
	時間不足	スケジュールがタイト だった

4.6.3. リラックスできるワーク環境の評価

リラックスできるワーク環境の評価を図 4-24 に、参加者の評価コメントを表 4-12 に示す。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると 61%という評価となっている。

自然豊かで静かであるリラックスできたという一方で、ワーク環境という点では設備面の不足と時間の不足でリラックスした仕事はできなかったという声が挙がっている。

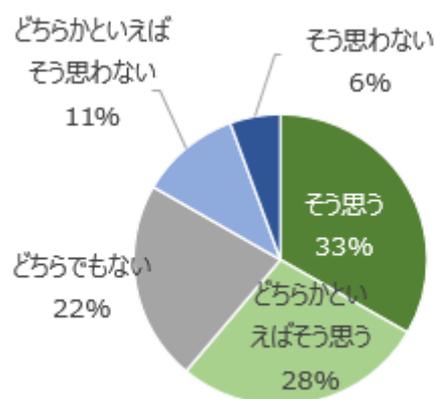


図 4-24 リラックスできるワーク環境の評価

表 4-12 リラックスできるワーク環境の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	環境	窓から見える景色と静けさ
		外の景色、周りが落ち着いた環境で家のような窮屈感がなかった
		静かな環境でよかった
		森林、川、自然に囲まれているため。
		周辺環境はいい
		自然が多い環境
		一人部屋なので集中できた
		周りに何もないので、宿でゆっくりリラックスできた
		座卓なので、ある意味すぐ寝れる環境ではあった
問題点	時間不足	全体的に ワークの詰め込みが多くて 忙しかった
		宿のインフラ環境状況もあちこち把握したいと思うものの、仕事もせねばならず、両立出来ず。
		活動（道普請や植林活動等）の時間もあるため、 業務調整が難しかった
		登山や作業で ワークする時間があまり持てなかった
	設備・環境	自室以外については 周りの状況等が気になる のでリラックスまではできない状況
		デスク・椅子がPC作業に向いていなかった
		共用スペースは他の観光客が楽しそうに話し込んでいるため、その前で仕事するのは少々気が引けた
		豪勢すぎて、仕事モードになりにくい
		通信環境が悪く、ワークの部分に関しては、むしろストレスが溜まってしまう環境

4.6.4. 地域関係者との交流、コミュニケーションの評価

地域関係者との交流、コミュニケーションの評価を図 4-25 に、参加者の評価コメントを表 4-13 に示す。

「できた」と「どちらかといえばできた」を合わせると 66%という評価となっている。

体験プログラムで地域の方々との交流ができたこと、今回受け入れ側として参加いただいた県側の方々との交流ができていことも良かった理由として挙がっている。

一方で、「もっとじっくりと話がしたかった」、「体験プログラム以外で地域の方との交流がしたかった」など「時間不足」が原因と思われる問題点が挙がっている。

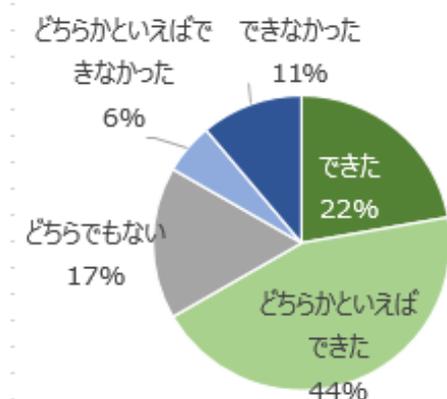


図 4-25 地域関係者との交流、コミュニケーションの評価

表 4-13 地域関係者との交流、コミュニケーションの評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	体験プログラム	植樹体験やワークショップでは、 地域関係者と色々と話できてよかった
		自ら積極的に声をかけて、地域関係者と交流することができた
		語り部の方や現地企業の方の協力によるプログラムを体験し、またワークショップではさらに踏み込んだ課題などをお聞きすることができ、交流を図ることができた
		各プログラムで交流、コミュニケーションがとれた
		ワークショップでいろいろ話げできた
		意見交換会などで意味日本の問題点を生の声で知ることができて有意義
	県側の参加者	宿の方やビューローの方等観光の悩み等話げできた 職員さんや大学教授の方々が気さくに声をかけてくださり、会話は多かった
問題点	時間不足	もっと時間があってもよかった
		プログラム以外に地域の住民や関係者とはあまり話す機会がなかった
		のんびり雑談をする時間があまりなかった
		他のグループの関係者の方とはお話げできなかった
		地域関係者とのコミュニケーションは、 もう少しじっくりと話したかった
		多少のコミュニケーションはありましたが、できたというほどではなかった
	もう少し一人一人の方と会話する時間があればよかった	
業務との両立	業務に追われていてコミュニケーションを深めるまでにはいかなかった	
プログラム	実際の交流の時間は最終日のWSだけだったので、1日の終わりに一日お疲れ様会みたいな感じで交流する場があったらよかった	
	時節柄厳しいが、懇親会的なイベントがあるとよい	

4.6.5. 非日常空間での刺激の評価

非日常空間での刺激の評価を図 4-26 に、参加者の評価コメントを表 4-14 に示す。

「できた」と「どちらかといえばできた」を合わせると 89%という評価となっている。

「体験プログラムとそこに関わる人」から刺激を受けたというコメントが多く、特に道普請や里山の再生活動といった現地でしか体験できない内容とその想いについて直接話を伺えたことが心に刺さる結果となった。

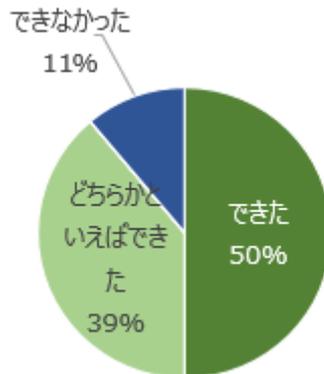


図 4-26 非日常空間での刺激の評価

表 4-14 非日常空間での刺激の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	体験プログラムとそこに 関わる人	実際に その仕事にかかわっている人と会話 したり、自分がその作業をすることで、日本の抱えている状況を知ることでもできし、山の大切さも知った色々なワーク体験をやらせていただく事で常に刺激を受け続けられました
		道普請、里山再生活動など、 現地ならではの活動は刺激 を受ける
		道普請や植樹での交流 は、普段テレワークをするだけでは、感じられない
		地域の方の取り組みを聞いたり体験 することができた
		若い人たちが地域の保全活動目的として起業 したり、 草の根的に地域を守るために語り部 となっておられる方達を知りとても嬉しく感じました。そういった素晴らしい方たちを通して自分を振り返り初心の時もっていたけど今薄れてしまったような事を思いだしたような気がします。この気持ちが自分自身の今後のモチベーションの向上へ繋げることができました。
		普段の生活の中では得られない経験
	自然	雄大な自然や世界遺産に触れ合ったことで刺激を受けた
		大阪にはない景観のため
	社内の交流	若手と行動を共にすることにより、若手の本音に触れることができた
		同じ部署の人と行った場合は、事務所とは違う環境で、コミュニケーションも取りやすくなる

4.6.6. スキルアップの評価

スキルアップの評価を図 4-27 に、参加者の評価コメントを表 4-15 に示す。

「できた」と「どちらかといえばできた」を合わせると 78%という評価となっている。

参加前ではスキルアップに期待する人は 17%と低かったが、61 ポイントアップという結果になった。評価のコメントとして「新たな気づき」、「人との交流」、「新たな体験」の 3 つが上がっており、今回の体験がスキルアップ、自身の成長の機会として活用できるという感じたことが高評価となっている。

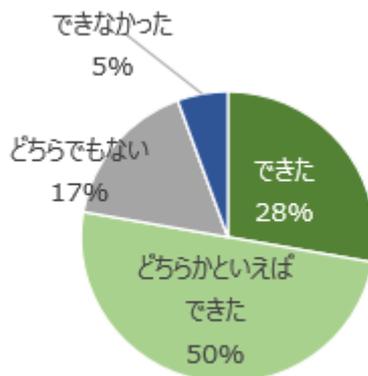


図 4-27 スキルアップの評価

表 4-15 スキルアップの評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	新たな気づき	積極的に目の前のことを楽しみ吸収し、 新たな行動や思考に変換する姿勢の大切さ を改めて学んだ
		仕事を的確にこなすことばかりに着眼せず、 大局観も意識できた ことも、自己成長の機会になった
		自分の知見が誰かを助けるきっかけになるかもしれないと感じた
		一つ一つ問題をクリアしていく大切さ を気づかされた。また自分の仕事に誇りを持つように仕事をしていくにはどうすればよいか？を考えながら日々取り組んでいきたいと改めて感じました。
		今後社会貢献活動など新しい枠組みでの取り組みを考えていきたい
	人との交流	新しい事を現地の方の声を含めて知ることができたこと。またそこから新たな興味が自分の中に生まれた事。 地域の方、社内の方との人脈 ができたこと。これらを今後活かすことで成長につながる
		和歌山の方だけでなく、 普段は関わらない富士通社員の人と関わる ことで、他の部署の人がどんな仕事をしているのかを知るいい機会になった
		他部署の先輩や同年代の方達との交流や他業界の若手の人達との交流は非常に刺激 になった
	新たな体験	普段体験できない経験 ができ、とても勉強になりました。
		様々な体験、遠地でのワーケーションを始めて行うなど、色々な学びはあった 熊野古道の歴史などを知れて、より歴史を知りたく思えるようになった。
問題点	時間不足	もう少し(1日、2日程度)、期間があればより良かった
		体験・ワーケーション・ワークショップと内容が詰め込まれていたため、駆け足になってしまった

4.6.7. 健康増進の評価

健康増進の評価を図 4-28 に、参加者の評価コメントを表 4-26 に示す。

「できた」と「どちらかといえばできた」を合わせると 61%という評価となっている。

参加前に健康増進に期待する人は 11%と低かったが、50 ポイントアップとなった。熊野古道ウォークや道普請という体験で普段の運動不足解消になったことが主な理由である。

一方で「食事が豪華すぎて食べ過ぎた」、「3 日では健康増進には至らない」という意見も挙がっている。

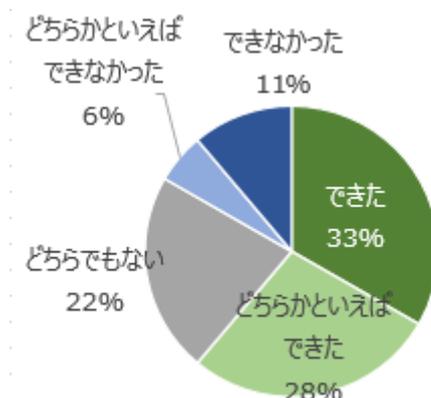


図 4-28 健康増進の評価

表 4-26 健康増進の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	運動不足解消	コロナ禍の影響で運動する機会が減っていたため
		体験活動等により非常に良い運動になったれからの日々の運動や健康について今回を通じて一から考える大変良い機会となりました
		運動不足でしたのでいい経験になりました。
		適度な体験活動で体を動かし、健康的であった
	環境	鳥の囀りで目が覚めたり、森林の空気を吸えたり、更に温泉があるというのは、とても健康増進につながった
問題点	食べ過ぎ	食べ過ぎたため=豪勢すぎた
		食べ過ぎ飲み過ぎで健康面は悪化したかもしれません
	時間不足	健康増進に3日では短い
		久々の運動は気持ちよかったです、健康増進というほどではなかった

4.6.8. 集中できるワーク環境の評価

集中できるワーク環境の評価を図 4-29 に、参加者の評価コメントを表 4-17 に示す。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると 55%という評価となっている。

ワーク環境という視点で見た場合、環境面は静かで良かったが、設備不足の問題が挙がっている。また、「時間不足」と「体験プログラムと業務との両立」が問題点として挙がっている。

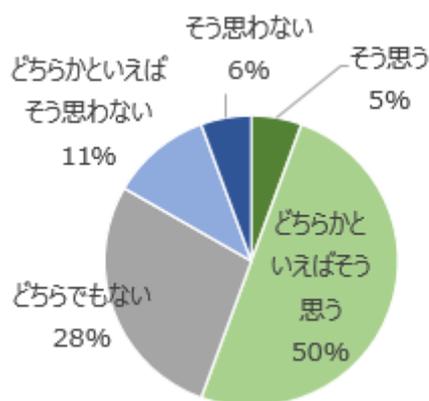


図 4-29 集中できるワーク環境の評価

表 4-17 集中できるワーク環境の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	環境	雑音もなくよかった
		周りの音も気にならず、集中し易かった
		部屋は集中できる環境
		雑音が聞こえないので集中はできる
		自室でワークを実施する分については大変集中できるワーク環境
		静かで集中できる
		業務の時間が決められているので集中してできた
		日常と違う空間にいると気持ちがリフレッシュされ、いつも以上に集中
		広い和室の中で仕事をするという環境面では結構集中できました
問題点	設備	頻りに電話がかかってくるので、共用スペースだと迷惑がかかると思い集中できなかった
		座卓だったのが少し集中にかけた
		宿の老朽化が目立った
		リラックスしすぎてあまり集中できなかった
	時間不足	テレワークの時間がタイムスケジュールの中にバラバラと分断されて入っており、集中しにくかった
		時間が確保されていれば、集中はしやすかった
		もう少し業務時間を確保できれば と思いました。(営業の場合、お客様はどこで仕事されているかは関係なく連絡がくるので、時間の確保に苦労した)
	体験プログラムと業務との両立	道普請やウォーク後は体も疲れていて、なかなか業務に集中することはできませんでした
		肉体的な疲労があったため、普段よりは集中できませんでした

4.7. 業務遂行の評価（普段の業務との比較）

常日頃実施している業務と今回のエコツアーリズムワーケーションで実施した業務について、以下の6項目の観点で「普段の業務と比較してどうだったのか？」を評価する。

- ✓ 仕事に対するモチベーション
- ✓ 創造力の喚起
- ✓ 仕事の効率
- ✓ 仕事の質
- ✓ トラブル発生時の対応
- ✓ 同僚や取引先とのコミュニケーション

図 4-30 に普段の業務と比較したワーケーション中業務の評価を示す。

創造力の喚起について 50%が「普段より良い」と評価したが、その他の項目について「普段より良い」と評価した人は 40%以下であった。一方で「普段より良い」と「普段と変わらない」を合わせると「創造力の喚起」の 88%を筆頭に、全項目で 60%を超える結果となった。

普段と変わらずにできていることを評価するという判断がある一方で、ワーケーションによるプラスの効果は低いということが言える。

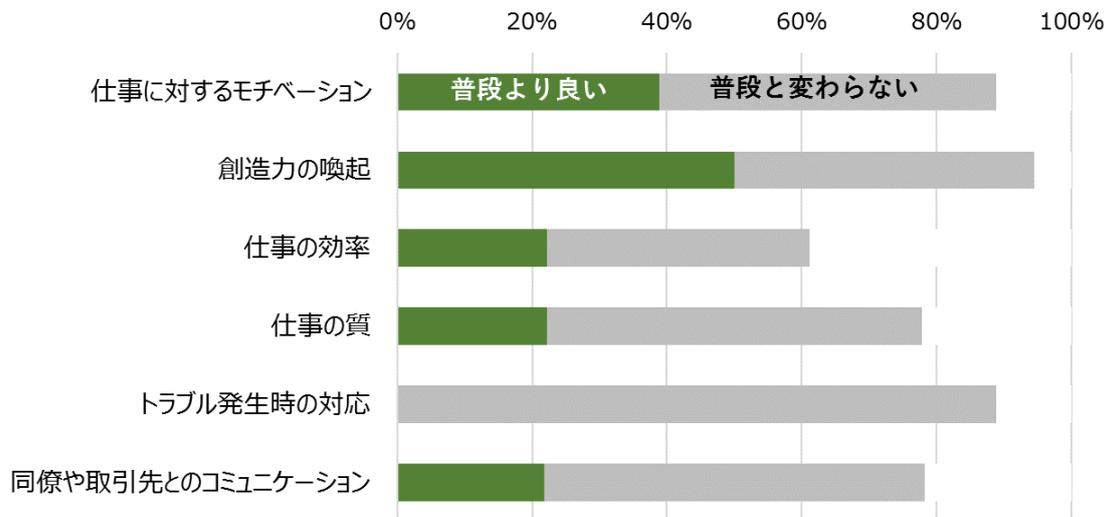


図 4-30 普段の業務と比較したワーケーション中業務の評価

4.7.1. 仕事に対するモチベーションの評価

仕事に対するモチベーションの評価を図 4-31 に、参加者の評価コメントを表 4-18 に示す。普段と比較して「上がった」と「どちらかといえば上がった」を合わせると 38%、「普段と変わらない」が 50% という評価となっている。

良い評価の理由としては「地域の方との交流」、「非日常の環境」が挙げられている。一方で「業務と体験プログラムの両立」と「時間不足」の問題点が挙げられている。

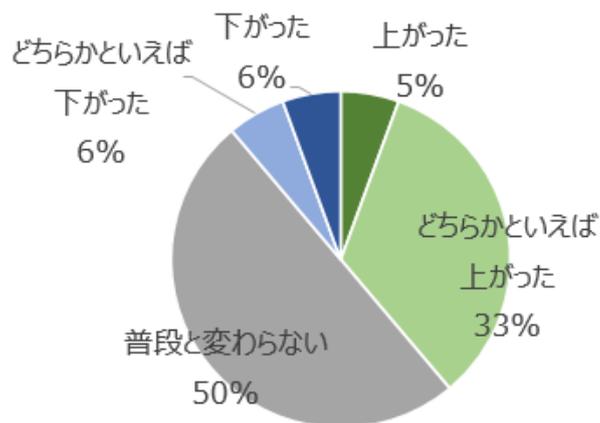


図 4-31 仕事に対するモチベーションの評価

表 4-18 仕事に対するモチベーションの評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	地域のひととの交流	頑張っている人を見て、自分も頑張ろうと思えた
		地域貢献の大切さも知り、社会貢献に対するモチベーションがあがった
		様々なフィールドで活躍している地域関係者と出会い、自分も仕事を頑張ろうと思え
	個人的にはモチベーションは人の関わりなので、参加者と交流が持てた	
環境	疲れても、「これから温泉に入ってリフレッシュ出来る」と思うと、気持ちが高揚します	
	ワーク時間が限られている中、短期集中で仕事に取り組めた	
	状況を利用して普段考えなかったようなことを考えることにより、現状の悩みがちっぽけであるような気持ちになった。一気に解決はできないかもしれないが、まずは自分ができる事をしっかり一つずつ実施していく気持ちになり、あきらめずに取り組んでいくというモチベーションが上がりました	
勤怠状況	2年間ほぼ在宅での勤務となっており、環境が変わることが気分のリフレッシュに大きく繋がった	
問題点	体験プログラムと業務との両立	ワーケーションから戻ってたまったものを対応しなければならず少し負担にはなつた。またワーケーションのレポを求められ事後対応が大変であると感じた
		暇気分のあとに切り替えるのは少ししんどさも感じた
		プログラムが盛りだくさんで疲れてしまった
	時間不足	業務時間をあまりとれなかったこと、疲労で業務に集中できない 慌ただしさが相まって評価が半減

4.7.2. 創造力の喚起の評価

創造力の喚起の評価を図 4-32 に、参加者の評価コメントを表 4-19 に示す。

普段と比較して「上がった」と「どちらかといえば上がった」を合わせると 50%、「普段と変わらない」が 44% という評価となっている。

良い評価の理由としては「地域の方との交流」、「非日常の環境」が挙がっている。一方で「プログラムの内容」と「時間不足」の問題点が挙がっている。

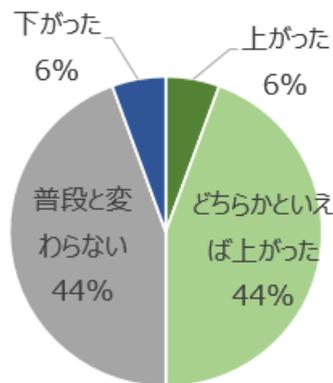


図 4-32 創造力の喚起の評価

表 4-19 創造力の喚起の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	普段と異なる環境	新しいものやふだんと違う環境でリフレッシュした頭で物事を考えられる
		普段見ていない景色や音を聞くことによって感覚が刺激され、創造力は上がったんだらうなと思います
		いろいろと考えられそうなポジティブな気持ちにはなった
		これから自分が歩んでいく方向性や自分のあるべき姿、初心はどうであったかなどの自分自身の長期的な創造を働かせることができた
	人との交流	業務に直接的に繋がりのない部署の方とのやり取りが極めて少なくなったこともあり、他部署の方と活動することは有意義だった
		日常生活とは離れた環境で、多種多様な人の価値観に触れることで、創造力が喚起された
問題点	プログラム内容	綿密に組まれたプログラムの中だったので、自分から何かを創るという実行の機会は少なかった
		創造力にはあまり影響なかった
		特に創造することがなかった
		今回のワーケーションのテレワークの時間ではそこまで考えるという余裕は無かった(テレワークの時間が少なくて残念)
	時間不足	あまりワークに専念する時間がなかったので、変化は感じませんでした
		プログラムが盛りだくさんで仕事どころでなかった
		創造力を問うほどには時間が足りない
		その域まで感じられなかった

4.7.3. 仕事の効率の評価

仕事の効率の評価を図 4-33 に、参加者の評価コメントを表 4-20 に示す。

普段と比較して「上がった」と「どちらかといえば上がった」を合わせると 22%、「普段と変わらない」が 39%、「下がった」と「どちらかといえば下がった」を合わせると 39%と、マイナス評価が多い結果となっている。

問題点として「体験プログラムと業務との両立」と「時間不足」が挙げられている。

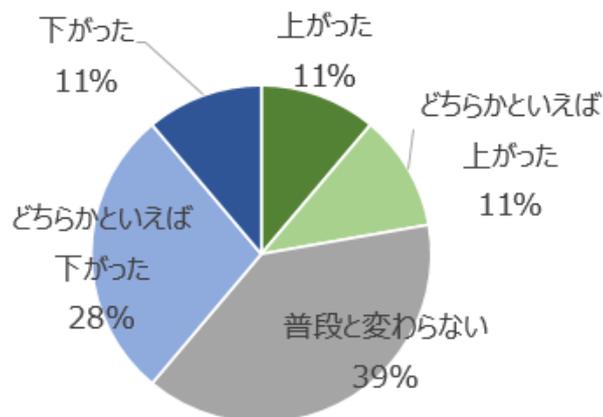


図 4-33 仕事の効率の評価

表 4-20 仕事の効率の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	環境	限られた時間で出来るだけ効率的に業務を進めるようにした
		集中してできた
		限られた時間でワークするために、取捨選択や優先順位を意識して効率を上げること
		環境が良いので同じ時間業務を実施しても疲れ度合いが軽いような気がした
		本当に必要なことにだけ対応するので、その少しの対応への効率は上がったかもしれない
問題点	体験プログラムと業務との両立	肉体的な疲労感 があったため、下がった
		プログラムが盛りだくさん で仕事どころでなかった
		運動の後の仕事はあまり捗らない
		疲労で業務に集中できない
	時間不足	あまりワークに専念する時間がなかったので、変化は感じません
		テレワークの時間が分断されていて短かった ので、効率の面はあまり感じなかった
		テレワークの時間が限られており 、そこまで大きな変化は感じなかった
		テレワークの時間がどうしても短かったことと 、
		業務時間をあまりとれなかった
	そもそも1日の中での 業務時間が少ない	
業務状況	月末だったこともあり、ワーケーション前後の業務負荷はやや高くなった	

4.7.4. 仕事の質の評価

仕事の質の評価を図 4-34 に、参加者の評価コメントを表 4-21 に示す。

普段と比較して「上がった」と「どちらかといえば上がった」を合わせると 22%、「普段と変わらない」が 56%、「下がった」と「どちらかといえば下がった」を合わせると 22%という評価である。

「集中できた」ことで質が上がった、という一方で「体験プログラムと業務との両立」と「時間不足」という問題点が挙がっている。

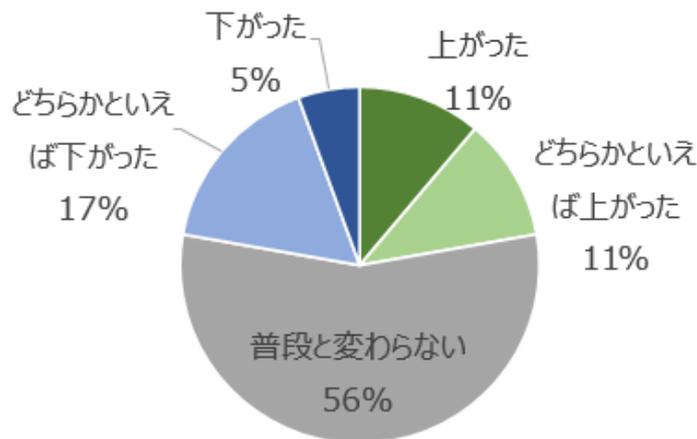


図 4-34 仕事の質の評価

表 4-21 仕事の質の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	環境	集中してできた
		仕事する時間が少なかったので、短期集中で仕事できたと思う
		疲れ（ストレス）の度合いが普段より軽いためより集中して同じ仕事に取り組むこと
問題点	時間不足	あまりワークに専念する時間がなかったので、変化は感じませんでした。
		プログラムが盛りだくさんで仕事どころでなかった
		今回ワークの時間が比較的になかったため丸1日ワーキングをすることができればより実感できると感じた
	体験プログラムと業務との両立	疲労で業務に集中できなかった
		肉体的な疲労感があったため、下がったと考えます

4.7.5. トラブル発生時対応の評価

トラブル発生時対応の評価を図 4-35 に、参加者の評価コメントを表 4-22 に示す。

普段と比較して「普段と変わらない」が 89%、「どちらかといえば下がった」が 11%という評価である。

ワーケーション中にトラブル対応業務がなかったという人が半数おり、「どちらかといえば下がった」人は実数で 1 名、山中では電波が届かない、体験プログラム中直ぐに電話に出られなかったことが下がった理由として挙げられている。

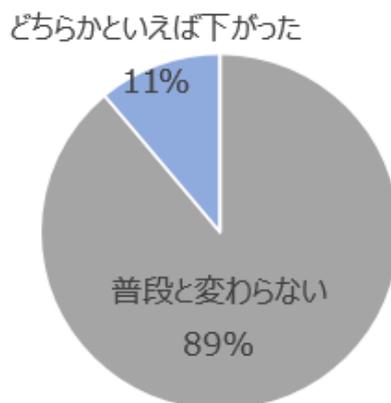


図 4-35 トラブル発生時対応の評価

表 4-22 トラブル発生時対応の評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	トラブル発生せず	特にトラブルが起こらずだったので、問題はなかった。起こったときはどうなるか、特にトラブルは発生しませんでした。web会議をワークタイムで実施しましたが
		普段と同じ状態で実施することができました
		通信環境があったので、特にトラブルなく対応できました
問題点	環境	どうしても電話対応については電波の関係や、電話が取れない状況もあり、顧客をお待たせする形となってしまいました

4.7.6. 同僚や取引先とのコミュニケーションの評価

同僚や取引先とのコミュニケーションの評価を図 4-36 に、参加者の評価コメントを表 4-23 に示す。普段と比較して「普段と変わらない」が 72%、「どちらかといえば取りにくかった」が 28%という評価である。普段からテレワークによる業務を実施しているため、場所が変わっても「普段と変わらない」という評価である。「どちらかといえば取りにくかった」の理由としては「環境」、「体験プログラムと業務との両立」に加え、「普段通り仕事をしている相手とのコミュニケーションはやり辛い」という声も挙がっている。

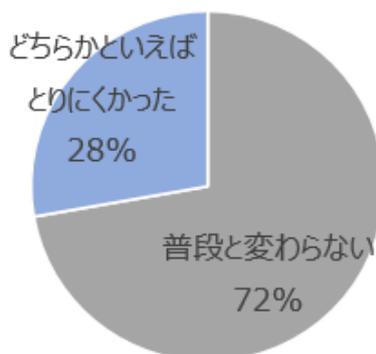


図 4-36 同僚や取引先とのコミュニケーションの評価

表 4-23 同僚や取引先とのコミュニケーションの評価コメント

	分類	参加者のコメント
良い点	通常もテレワーク	現状、ほぼ在宅勤務であり、コミュニケーションについては大きな変化はなかった
		電話やメールしている分には普段と変わりませんでした
		携帯も繋がるし、Web会議も同様に実施できる
		携帯が繋がるので特に支障はなかった
		基本的に社内なので、やり取りにおける支障はありませんでした
		普段のテレワークと差異は感じられず
問題点	環境	ワーケーション中は周囲に気を遣って電話でのコミュニケーションが取りづらかった
		どうしても電話対応については 電波の関係や、電話が取れない状況 もあり、顧客をお待たせする形となってしまいました
		通信環境が悪い影響でやや取りづらさ はありました
	体験プログラムと業務との両立	野外ワークの時間が結構ありましたので、その間はメールが見れない。特に金曜日は朝から夕刻まで見れなかったので、コミュニケーションが丸一日空いてしまった感じ
		活動中はあまりコミュニケーションが取れなかった
		活動時間がとられるため、なかなかやりくりが難しい
	ワーケーションに参加していないメンバーの理解	仕事をしている感じではなかったため、がっつり仕事をしているメンバーと会話はしづらかった

4.8. エコツアーリズムワーケーション全体の評価

4.8.1. エコツアーリズムワーケーションに参加して感じたこと

参加者がエコツアーリズムワーケーションに参加してみて感じたことを示す。

全体的には、

- ✓ 貴重な体験ができ、非常に有意義な機会
- ✓ 非常に密度が濃く、充実した時間
- ✓ 非常によい経験になった
- ✓ 総じて楽しかった
- ✓ モチベーションの向上を図れた

といった肯定的な評価である。

良かった点として、**人との交流**を挙げている人が多い。

- ✓ 様々な人と関わることがよかった
- ✓ 地域関係者と交流できたことが一番良かった
- ✓ 同部署の人でも直接会う機会がなかったため、今回密度濃く交流ができた
- ✓ ぜひもう一度参加された方と、振り返りなどしたい
- ✓ 他部署の人達との会話は、こういったコンテンツがあることで円滑に進むことも感じた
- ✓ 地域の方の想いや草の根的な活動を目にして自分自身の初心を思い出しモチベーションの向上を図ることができた

今回の体験より自身の**ワークスタイル**に関して新たな気づきを得た、という意見も出ている。

- ✓ 仕事はオンオフの切替えが必要だと固定観念を持っていたが、自分なりの新しいワークスタイルを発見することができた
- ✓ 全く違う場所での空気を感じながら、沢山のワークを体験出来、テレワークもトライ出来たのはとても良かった
- ✓ 現地での体験活動を交えながら、通常業務もこなすことができることは実感することができた

こういう肯定的な意見の一方で、**スケジュール**については問題指摘が多い。

- ✓ もう少し期間に余裕があればよかった
- ✓ もう少し自由時間があるとよい
- ✓ 3日間は短い、同じプログラムで4日、もしくは5日でもいい
- ✓ プログラムが少し詰め込みすぎ、今回2泊3日であったためプログラムの詰め込み感を感じた
- ✓ 全体を通してスケジュールが非常にタイトだったので、何も無い日を作ってもいい
- ✓ 全体的に盛りだくさんで少し疲れた
- ✓ 少し忙し過ぎたと思います。せっかくあそこまで行くのであれば、フル1日テレワークの日を2日入れて5日間にする位のほうがよかった

事前の準備不足を指摘する声もある。

- ✓ ワークショップなどプログラム前に会話の機会があれば、より良かった
- ✓ ワークよりもバケーション感が強かったので、参加前の事前準備や意識の醸成が必要

4.8.2. ワークেশンの再実施

「またワークেশンを実施してみたいですか?」という問いに対しては、94%（1名を除く17名）が肯定的な回答を得ている。

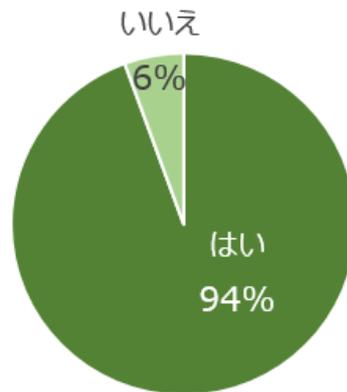


図 4-37 「またワークেশンを実施してみたいですか?」の回答

またワークেশンを実施するときの条件に付いては、表 4-24 のようなコメントを得ている。

「日程・プログラム」に関する条件が最も多く、「体験プログラムとワークする日を分ける」という内容である。今回は体験プログラムとワーク時間が 1 日の中で混在していたことで「ワークが十分にできなかった」と感じている参加者が多く、その改善としてこのような意見が出ている。

「会社の制度」面では、旅費や休暇取得に関する意見が出ている。

「ワークেশンの目的」についてのコメントもあり、様々なスタイルが存在するワークেশンの目的を明確にすることの重要性を説いている。

表 4-24 ワークーションを実施するときの条件

分類	参加者のコメント
日程・プログラム	それなりの期間を取ること
	午前テレワーク、午後体験プログラム
	休みの日と仕事の日をきちんと分ける
	3泊4日で1日体験無しが理想
	体験プログラムが無い日があってもいい
	体験プログラムがある日と、ワークする日と分かれている
	肉体的な疲労がかからない形で体験型ではなく、テレワークのみで実施したい
	「この日は1日テレワーク」とかそういう分け方
	ワーク時間、地元体験時間ともに少し余裕を持ったプログラム構成
最低限のメール確認・電話対応+宴会	
会社の制度	会社で行くのならば、今回のように プログラムが組まれていたり、移動手段に困らない ほうがいい
	体験型で旅費が会社負担 であれば実施する
	ワークーションを行う際の処遇に依存する。出張として扱えるのか？（ex、交通費や宿泊費などの負担割合） 休暇取得を絡めないといけないのか？
設備	PC作業に向けた環境(ネットワーク、オフィス什器)があること
	フリーの軽食や、コワーキングスペースがある場所
目的	サステナビリティを考えるきっかけになるようなプログラムを構築したい
	地域の課題やそこに取り組む方との出会い
	観光型か業務型かしっかり目的がわかる

4.8.3. 和歌山県への再訪

和歌山県への再訪については、「ワークーションの場所として」と「観光目的」に分けて問うた。

「また和歌山県でワークーションを実施してみたいですか？」という問いに対しては、72%が肯定的な回答をしている。

「和歌山県の自然や文化に魅力を感じた」ことが主な理由である。否定的な回答の理由は「せっかくワークーションをするのであれば色々な場所で実施したい」という理由であり、和歌山県に対して否定的な意見はなかった。

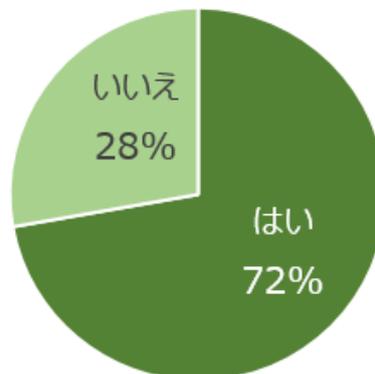


図 4-38 また和歌山県でワークーションを実施してみたいですか？

「観光目的で和歌山県を再訪したいか？」については、89%が肯定的な回答である。

- ✓ 熊野古道の他ルートを探索してみたい
- ✓ 南紀白浜にはまた行きたい
- ✓ 那智の滝のエリアを訪れてみたい
- ✓ 那智大社など熊野でまだ行ってないところに行きたい
- ✓ アドベンチャーワールドや、熊野古道の行ってないところなど、行ってみたい
- ✓ まだまだ知らないところが沢山ありそう

と、今回訪問した場所以外の魅力的な場所に行ってみよう、という声が多く挙がっている。

個人観光で訪れる場合は、

- ✓ 今回のような体験プログラムが実施できるのか？
- ✓ 県内での移動手段に不安

という声もある。

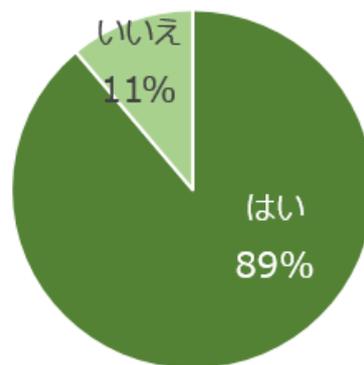


図 4-39 観光目的で和歌山県を再訪してみたいですか？

5. エコツーリズムワーケーションの効果検証まとめ

今回和歌山県で実施したエコツーリズムワーケーションの効果検証について述べる。

5.1. ワケーション受け入れ側の視点

ワーケーション受け入れ側の課題として設定した「環境に優しい観光スタイル確立とワーク環境の充実」を成し遂げるため設定した4つの重要成功要因ごとに、検証結果を示す。

✓ 関東圏・関西圏からのアクセス

[問題仮設]

アクセスが良いと感じている参加者は半数に満たない

[検証結果]

アクセスが良いと評価した参加者は、関東圏が6割、関西圏は4割。

自宅からの所要時間は関東圏と関西圏ともに3時間20分と同じであるのに、関東圏と比較して関西圏の評価が低いのは、飛行機の搭乗時間(1時間)とJRの乗車時間(2時間20分)の差が原因と推察する。

関東圏からの評価は良いが、改善点として1日3便の飛行機の増便もしくは座席の増、空港設備の充実を挙げる。

✓ ネットワーク環境

[問題仮設]

業務実施に十分なネットワーク環境が整っていない

[検証結果]

参加者の8割が「ネットワーク環境に問題ない」と評価している。ワーキングスペースで実測したネットワークの通信速度の結果を見ても問題はない。

なお、通信環境が悪い特定の部屋が存在する可能性があるため、その部屋の特定と環境の改善を改善点として挙げる。

✓ 業務実施に十分な設備

[問題仮設]

ワーキングスペースの設備が業務実施に十分でない

[検証結果]

参加者の7割が「業務実施には十分でない」と評価。

ホテルの部屋に設置されていた机と椅子の高さがデスクワークには適していなかったことが主な理由であり、改善点として挙げる。

また、隣室の話声が聞こえることがあり、防音強化も改善点として挙げる。

✓ 世界に誇る観光資源

[問題仮設]

再訪したいと考える参加者は半数に満たない。

[検証結果]

参加者の9割が「和歌山県を再訪したい」と評価している。

和歌山県の自然や文化、特に今回訪れた熊野の魅力を感じ体験できたことが、その主な理由である。

個人で訪れた場合の県内の移動手段の利便性向上を改善点として挙げる。

図 5-1 にワーケーション受け入れ側の視点での課題体系図と検証結果を示す。

課題	環境に優しい観光スタイルの確立とワーク環境の充実			
重要成功要因	関東圏・関西圏からの便利なアクセス	業務実施に十分なネットワーク環境	業務実施に十分なワークスペース	世界に誇る観光資源
問題仮設	アクセスが良いと感じている参加者は半数に満たない	業務実施に十分なネットワーク環境が整っていない	ワークスペースの設備が業務実施に十分でない	再訪したいと感じる参加者は半数に満たない
検証結果	関東は6割、関西は4割が「アクセスが良い」と評価	「ネットワーク環境に問題ない」と8割が高評価	「業務実施には十分でない」と7割が低評価	9割が「再訪したい」と評価
改善点	・飛行機の増便/座席増(週末だけでも) ・空港設備の充実	・通信環境が悪い特定の部屋(場所)での環境改善	・デスクワークに適した机と椅子、延長コードの用意 ・防音の強化	・県内移動手段の利便性向上(海岸沿い以外の地域への移動への不安払拭)

図 5-1 ワーケーション受け入れ側の課題体系図と検証結果

5.2. ワーケーション実施側の視点

ワーケーション実施側の課題として設定した「社内でのワーケーションの選択肢の増加、認識アップ」を成し遂げるため設定した3つの重要成功要因ごとに、検証結果と改善点を示す。

- ✓ 非日常の環境下での創造力の喚起

[問題仮設]

環境を変えただけでは創造力は喚起されない

[検証結果]

普段と比較して創造力が喚起されたと評価した参加者は5割。

評価した理由は、普段とは異なる「環境」や「新たな人との交流」が挙げられている。

改善点として、十分な時間の確保、創造力を喚起するプログラムの提供、を挙げる。

- ✓ 仕事に対するモチベーションアップ

[問題仮設]

ワーケーション中に期待値ほどモチベーションは上がらない

[検証結果]

普段と比較して「モチベーションが上がった」と評価した参加者は4割、「普段と変わらない」という評価が5割。

モチベーションが上がった人は「新たな人との交流が刺激」を挙げている。体験プログラムで時間や体力が取られ仕事のモチベーションが上がるには至らなかったという声が多く、体験プログラム

と業務の両立を図ることが改善点である。

✓ ワークেশンの良さの実体験

[問題仮設]

ワークেশンを実施したいと考える参加者は半数に満たない

[検証結果]

ワークেশンをまた実施したいと評価した参加者は 9 割であり、今回のワークেশンによりワークেশンの良さは体験できた。

ワークেশンを実施する条件として「体験プログラムと業務を同じ日に実施しない」、「会社制度における費用面のサポート」、「ワークেশン非参加者のワークেশンへの理解」が挙げられている。

図 5-2 にワークেশン実施側の視点での課題体系図と検証結果を示す。

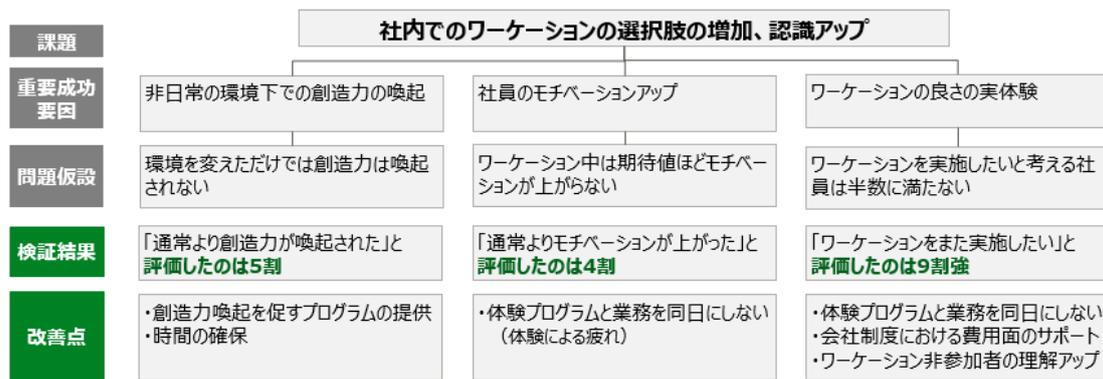


図 5-2 ワークেশン実施側の課題体系図と検証結果

5.3. エコツアーリズムワークেশンについての考察

これまでの検証結果を踏まえて、今回のエコツアーリズムワークেশンについての考察を述べる。

アンケートで項目ごとに 5 段階評価した結果を 5 点満点の数値に換算して平均を取った結果をレーダーチャートとして示す。図 5-3 に設備面、図 5-4 に体験プログラム、図 5-5 にワークেশンによる内面変化、図 5-6 に普段の業務との比較を示す。

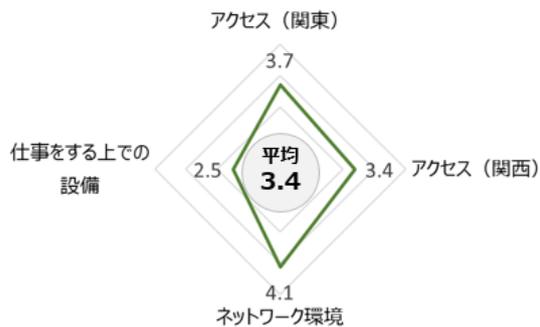


図 5-3 設備面の評価



図 5-4 体験プログラムの評価



図 5-5 ワークーションによる内面変化の評価



図 5-6 普段の仕事との比較評価

図 5-4 の「体験プログラムの評価」の平均が 4.1 点、図 5-5 の「ワークーションによる内面変化の評価」の平均が 4.0 点という結果から、**いつもとは異なる非日常体験が、参加者の内面変化に良い影響を与えている**と言える。特に世界遺産で身体を使って体験するプログラムは充実しており、語り部さんの説明付きのウォーキング(4.4 点)、正式参拝を体験した熊野本宮大社(4.3 点)、社会貢献に触れることができる道普請(4.2 点)、地元のために活動する若い人から刺激を受けた里山の再生活動(4.1 点)が、参加者へ与えた影響は大きいものがある。

良いプログラムだけでなく「もっと時間をかけて実施したかった」という声も挙がっている。また、里山の再生活動は事前のイメージとはかけ離れており、その結果参加者の評価が下がっている。プログラム内容の事前説明を行うことを改善点として挙げる。

図 5-6 の「普段との業務との比較評価」の平均が 3.0 点という結果から、**ワークーション中の業務の実施は普段と変わりはなく、良い効果は与えていない**と言える。図 5-1 の「設備面の評価」の「仕事をする上での設備」が 2.5 点と低い、これは机・椅子などワークを実施する設備が充実していなかったことが理由である。しかし、日常体験が参加者の内面変化には良い影響を与えているのに、仕事のパフォーマンスが上がっていないのは、「体験プログラムでの影響」と「普段の仕事」に、そもそも距離があるからかもしれない。

参加者の一部からは、「体験プログラムが詰まっていた仕事をする時間が短かった」、「体験プログラムで疲れて仕事をする気になれなかった」という声が出ている。体験プログラム自体は貴重な体験であり高評価であるが、「普段の仕事」に対しては必ずしも良い影響を与えなかったということになる。

図 5-7 に仕事と体験プログラムの関係図を示す。

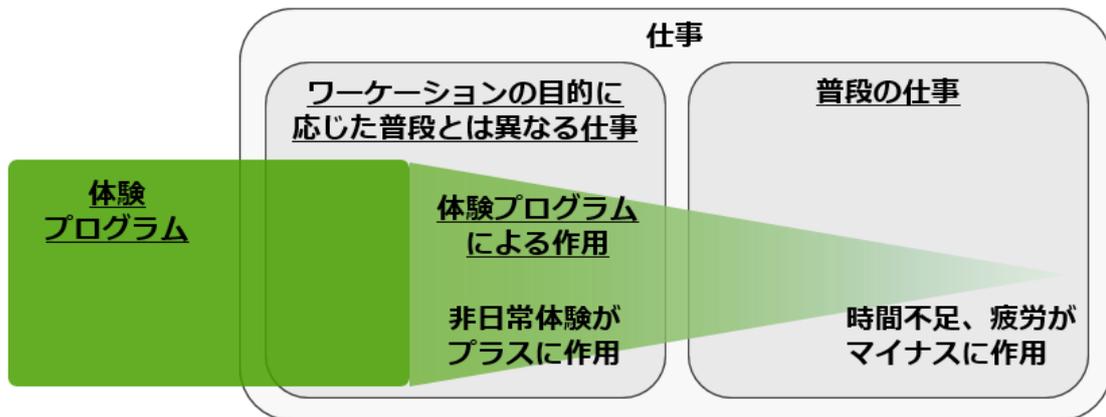


図 5-7 仕事と体験プログラムの関係

「仕事」は、その内容から「ワーケーションの目的に応じた普段とは異なる仕事」と「普段の仕事」とに大きく分かれる。体験プログラムは本来仕事ではないが、今回は会社の指示により参加し、業務時間内に体験プログラムを実施していることから、仕事の一部という捉え方もできる。実際にそう感じた参加者もいたようである。

「ワーケーションの目的に応じた普段とは異なる仕事」は「体験プログラム」に近いところにあり、非日常体験がプラスに作用した。一方、「普段の仕事」は「体験プログラム」から距離があり、「体験プログラム」により、仕事時間が消費され、体力的な疲れもあり、マイナスに作用したと考える。

参加者の中には、参加者が想定していたワーケーションと今回のエコツーリズムワーケーションが違っている人もいた。参加者は、「ワーケーション = ワーク + バケーション」、つまり、「テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園といった、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと」という一般的なワーケーションのイメージを持っていた。一方で、今回のエコツーリズムワーケーションは、決められたプログラムの中で「体験プログラムを実施してワーケーションの目的に応じた普段とは異なる仕事をしつつ、普段の仕事も行う」というものであり、一般的なワーケーションとの間にはギャップがある。さらに、3日間という短い日程に体験プログラムと仕事が一瞥と詰まった日程が、ギャップからくる戸惑いに拍車をかける結果となったように考える。

そもそも「ワーケーション」は「ワーク+バケーション」からできた造語であるが、今や「バケーション」だけの意味では収まらなくなってきている。

和歌山県では、ワーケーションのタイプを大きく2つに分類している。

A) 個人型ワーケーション

オフィス外での勤務が可能な場合に、在宅勤務等の生活圏内に留まることなく、社員が自由に地域等において業務を行う。

B) 出張型（出島型）ワーケーション

企業において、それぞれの目的に応じて、地域に社員を派遣しながら事業を実施し、社内で結果を踏まえながら取組を展開する

一般社団法人日本ワーケーション協会では、ワーケーションを7つのタイプに分類している。

① 休暇活用（観光）型：Vacation

休暇で観光を楽しみつつ、普段の仕事も行う

② 拠点移動型：Location

生活 or 働く拠点を移す、分散させる

③ 会議型：Communication

普段の職場と異なる場所で集中討議、プロジェクトの立案

④ 研修型：Education

普段の職場と異なる場所で集中的に研修を行う、教育の場

⑤ 新価値創造型：Innovation

企業間の交流を通じて、新たなビジネスを生み出す

⑥ 地域課題解決型：Solution

地域貢献、地域の課題解決を目指した事業創出を目指していく

⑦ ウェルビーイング（福利厚生）型：Motivation

保養所、健康増進、リカレント等の社員の動機づけ

和歌山県の分類に日本ワーケーション協会の分類を当てはめると、

1) 個人型 – ①休暇活用（観光）型 ②拠点移動型

2) 出張型 – ③会議型、④研修型、⑤新価値創造型、⑥地域課題解決型、⑦福利厚生型

この分類に「仕事の内容」を関係付けると、個人型は「普段の仕事」が対象であるのに対し、出張型は「ワーケーションの目的に応じた普段とは異なる仕事」と「普段の仕事」の両方が対象となる。どちらかという「ワーケーションの目的に応じた普段とは異なる仕事」の比重が重くなる傾向がある。ワーケーションによって「普段の仕事」のパフォーマンスを上げる、という目的は個人型ワーケーションには当てはまるが、出張型ワーケーションにもそれを求めることは、企業側が少し欲張り過ぎているのではないかと考える。

この「ワーケーションの目的に応じた普段とは異なる仕事」と「普段の仕事」を実施するバランスについて、ワーケーション主催者と参加者で認識を合わせておくことは、ワーケーションを実施する上で大事なポイントである。

図 5-8 にワーケーションのタイプと仕事内容の関係を示す。

和歌山県		一般社団法人日本ワーケーション協会		仕事の内容
個人型ワーケーション	オフィス外での勤務が可能な場合に、在宅勤務等の生活圏内に留まることなく、社員が自由に地域等において業務を行う	休暇活用(観光)型: Vacation	休暇で観光を楽しみつつ、普段の仕事も行う	普段の仕事
		拠点移動型: Location	生活or働く拠点を移す、分散させる	
出張型(出島型)ワーケーション	企業において、それぞれの目的に応じて、地域に社員を派遣しながら事業を実施し、社内で結果を踏まえながら取組を展開する	会議型: Communication	普段の職場と異なる場所で集中討議、プロジェクトの立案	普段とは異なる仕事
		研修型: Education	普段の職場と異なる場所で集中的に研修を行う、教育の場	
		新価値創造型: Innovation	企業間の交流を通じて、新たなビジネスを生み出す	
		地域課題解決型: Solution	地域貢献、地域の課題解決を目指した事業創出を目指す	
		福利厚生型: Motivation	保養所、健康増進、リカレント等の社員の動機づけ	

図 5-8 ワーケーションのタイプと仕事内容の関係

ワーケーションには上記の組み合わせや上記以外のタイプなども含めいろいろなタイプが考えられる。そのタイプの目的に適した日程・プログラムを柔軟に組むことが、ワーケーションを受け入れ側、実施する側の双方に大事な事項となる。

和歌山県には今回のように「熊野古道」という世界遺産での「サステナブルエコツーリズム」という大変魅力ある体験プログラムがある。これは「サステナブルなエコ」に対する意識を高めるとい④研修型、地域活動に触れる⑥地域課題解決型をはじめ、様々なタイプのワーケーションへ適用することができる。

例えば、⑦ウェルビーイング型の健康増進を目的とした「ヘルスケアツーリズムワーケーション」、企業にとって従業員の健康は大事な要因であり、従業員を対象にヘルスケアツーリズムを実施している企業の割合も近年増加傾向になっている。熊野は「よみがえりの聖地」というブランドを活かし、身体を使ったプログラムの時間を多く取り、食事内容をヘルシーにマイナーチェンジすることで「ヘルスケア」を謳うことは難しいことではない。

ワーケーションタイプ毎のプログラム例を表 5-1 に示す。

表 5-1 ワーケーションタイプ毎のプログラム例

ワーケーションのタイプ	和歌山県									企業			
	熊野古道ウォーク				地域課題解決WS				食事	仕事の内容			
	30分	60分	120分	180分	0回	1回	2回	3回	ヘルシー	標準	豪華	普段の仕事	普段とは異なる仕事
今回			✓			✓					✓	50%	50%
ヘルスケア				✓	✓				✓			30%	70%
地域課題解決		✓						✓			✓	20%	80%
新人研修			✓				✓			✓		0%	100%

このようにワーケーションのタイプ（目的）に合わせてプログラムメニューをコーディネートし、幅広いワーケーションに対応することが、ワーケーションの実施先として和歌山県が選ばれることに繋がる。

企業から見た時も、様々なタイプのワーケーションを用意し、その目的を明確にし、目的に適した社内制度（休暇や費用など）やイベントを設けることで、社員のワーケーションに対する認識が上がり、ワーケーションの実施が広がることに繋がる。

最後に、今回のエコツーリズムワーケーションの日程の改善案を、ワーケーションの目的や対象部門の仮設を前提として、表 5-2 に示す。

[ワーケーションの目的]

ウェルビーイング（福利厚生）型

普段とは異なる体験により心身のリフレッシュを図ることで、仕事へのモチベーションを上げる

[ワーケーションの対象部門]

「普段の仕事」と「サステナブルエコ」の関係が薄い部門

[改善のポイント]

- ✓ 日程を 5 日間に伸ばす、バケーション色を強くするなら土日を含む
- ✓ 初日は午後開始として、早朝での移動を回避する
- ✓ 体験プログラムとテレワークは別日、もしくはテレワークは体験プログラム前に実施する
- ✓ 地域の方との交流、参加者同士の親睦の時間をたっぷり取る

表 5-2 エコツーリズムワーケーションの日程改善案

1日目		2日目		3日目		4日目		5日目	
AM	移動	AM	自由時間 (テレワーク)		自由時間 (テレワーク)	AM	里山の 再生活動	AM	振り返り 終了式
PM	熊野古道館 世界遺産センター 講話	PM	道普請 熊野古道ウォーク 熊野本宮大社 正式参拝			PM	意見交換& 地域課題解決 WS	PM	自由時間 (テレワーク) 移動
	開始式								
	懇親会						懇親会 (WS参加者)		

参考文献

- 1) 和歌山県. 和歌山ワーケーションプロジェクト, 2022
- 2) 岡山県. JR 西日本が展開する観光型 MaaS(setowa) とストック（古民家等）を活用した地域づくり, 2021
- 3) 長野県. 令和3年度ワーケーション・コレクティブ・インパクト, 2021
- 4) 鳥取県. ワーケーション・コレクティブインパクト鳥取プログラム概要, 2021
- 5) 株式会社月刊総務. ワーケーションに関する調査, 2021 (<https://www.g-soumu.com/articles/linkage-2021-06-workationquestionnaire> ,2022年2月22日最終確認)
- 6) 一般社団法人日本ワーケーション協会. 「ワーケーションとは?」のページ (<https://workcation.or.jp/workcation/> ,2022年2月22日最終確認)
- 7) 富士通株式会社. Work Life Shift の取組み, 2021 (<https://www.fujitsu.com/jp/innovation/worklifeshift/> ,2022年2月22日最終確認)
- 8) 富士通株式会社. 和歌山県と富士通株式会社とのワーケーション・移住協定の締結について, 2021 (<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2021/10/15.html> ,2022年2月22日最終確認)